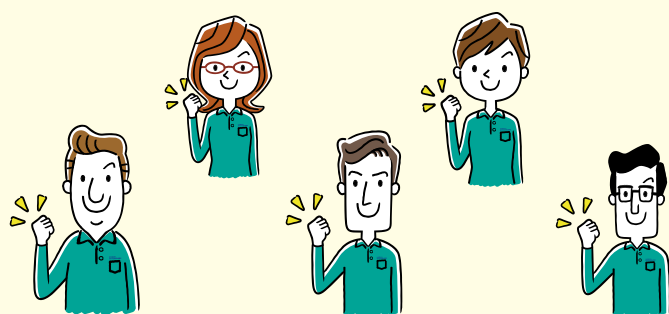
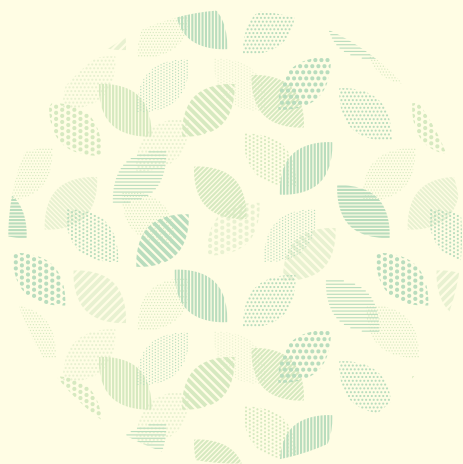


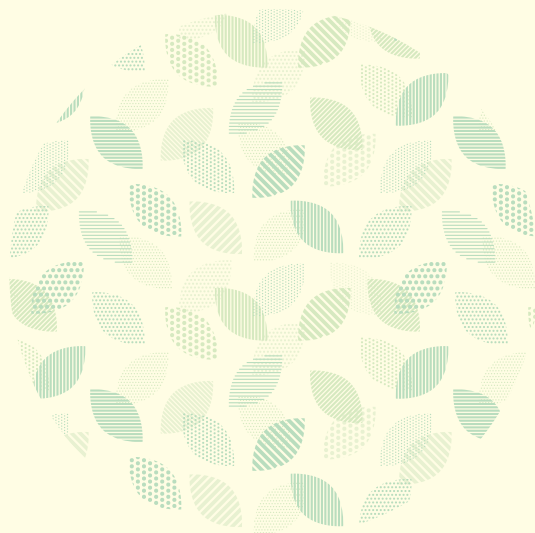


地域福祉コーディネーター 生活支援コーディネーター 令和6年度活動報告書

activity report
2024



気づく・動く・つながる
みんなが主役！
地域で支えあうまちづくり



府中市社会福祉協議会



はじめに

わがまち支えあい協議会(以下、わがまち)への取り組みを始めて、10年という節目を迎えました。本冊子では、これまでの活動の軌跡を振り返るとともに、現在の取り組みを整理し、未来への展望を共有することを目的として作成いたしました。

この10年間は、私たちの暮らしや社会のあり方が大きく揺れ動いた時代でもありました。少子高齢化の進行や、地域コミュニティの希薄化、経済格差の拡大に加え、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行は、生活に深刻な影響を与え、社会の脆弱さを浮き彫りにしました。また、災害の頻発や国際情勢の不安定化など、予測困難な事態が続く中で、「地域で支え合う力」の重要性が一層高まっています。

そうした状況の中、地域福祉コーディネーターは、地域住民一人ひとりの声に耳を傾け、孤立や困難を抱える方々に寄り添いながら、地域資源をつなぎ、支え合いの仕組みを築いてきました。当初は、地域福祉の担い手としての役割や認知度も十分ではありませんでしたが、地道な活動を重ねる中で、少しずつ信頼を得て、協働の輪を広げてまいりました。

本冊子では、地域福祉コーディネーター事業創設の背景と理念、各年度の主な活動

内容、地域との連携事例、成果と課題、今後の展望をまとめました。この10年間で培った経験と知恵は、今後の地域福祉のさらなる発展に向けた貴重な財産であり、次の世代へと継承していくべきものです。

私たちは、地域福祉とは、制度やサービスにとどまらず、人と人とがつながり、互いに気かけ、支え合う力そのものだと考えています。どんなに社会が変化しても、誰もが安心して暮らせる地域をつくるためには、顔の見える関係性や、日常的に助け合う文化が欠かせません。

これまで地域福祉コーディネーターの活動を支えてくださった行政をはじめ、府中市のまちづくりを真剣に考え、コーディネーターの活動を後押ししてくださる住民の皆さま、関係機関、福祉団体の皆さまに、心より感謝申し上げます。私たちはこれからも、地域の声に耳を傾けながら、共に歩み、共に考え、共に支え合う福祉のまちづくりの実現に向けて、着実に取り組んで参ります。今後とも、ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

社会福祉法人 府中市社会福祉協議会
会長 北島 章雄



ふわり
社協マスコットキャラクター

座談会「関係者と振り返る地域福祉コーディネーターとの10年」



地域に寄り添い、人と人をつないできた「地域福祉コーディネーター」。その歩みが始まって10年目を迎えました。今回は、立ち上げ当初から活動を見守り支えてこられた方々にお集まりいただき、これまでの歩みを振り返りながら、地域の目に映る“コーディネーター像”について語り合っていました。地域への思いと、未来への期待が交差する、心温まるひとときとなりました。



座談会参加者



林さん(是政)

府中市第2地区民生委員児童委員協議会会長。わがまち支えあいの会～小柳・是政・清水が丘エリア～の副会長。ひがしふちゅう駅前こども食堂の代表。



平泉さん(是政)

小柳町支え愛の会会長。わがまち支えあいの会～小柳・是政・清水が丘エリア～元副会長。府中市社会福祉協議会元理事。地域なんでも相談員。



飛澤さん(押立)

押立・車返ささえあい協議会元会長。地域福祉権利擁護事業生活支援員。地域なんでも相談員。第4次地域福祉活動計画策定委員。



菱沼先生

日本社会事業大学/社会福祉学部教授。府中市福祉のまちづくり推進審議会副会長、府中市社会福祉協議会第4次地域福祉活動計画推進委員会副委員長。

(※以下、敬称略)

社会福祉協議会との関わりのきっかけは？

飛澤

退職して時間ができたときに、府中市社会福祉協議会(以下、社協)の地域福祉権利擁護事業の生活支援員に応募したのが最初。正直言って、社協が何をしているのかよく分かってなくて。それで、自分の居場所づくりも兼ねて「わがまち」の説明会に行ったんですよ。地域活動にはあまり興味なかったんですけど、それからずっと活動を続けていますね。

林

私は平成10年から民生委員を始めて、それがきっかけで社協と関わるようになりました。小地域懇談会等、まちづくりの会議に呼ばれることが多くて、地域のつながりを大事にしながら参加してきました。阪神淡路大震災の時に地域の助け合いの大切さを実感したのも大きいですね。最初は手探りでしたけど、社協の地域づくりの取り組みに初期から関わって、今も続けています。

平泉

私が社協と関わり始めたのは平成元年。3人目の子どもが小学校に入学して、ちょっと落ち着いた時期にボランティア講習に参加したのがきっかけです。当時のボランティア育成の熱意に感動して、高齢者施設や精神障害者グループホームで活動を続けてきました。いろんな人とのコミュニティができて、ボランティアの素晴らしさを実感しています。社協は私にとって生涯の学び舎ですね。

菱沼先生

社協との関わりは、第3次地域福祉活動計画の策定に参加したことからです。計画の中で地域福祉コーディネーター（以下コーディネーター）を配置し、「わがまち支えあい協議会」を地域ごとに作れたらという方向になりました。以前からある話し合いの場を発展させて、具体的に動くしくみになると、府中の方々の力をもっと生かせる。最初はイメージを共有するのに苦労しましたが、いろんな人たちが協力しあえるしくみが「あったほうが



いいよね」って理解が広がりました。この10年間で私が想像した以上の活発な活動を展開してくださっているのは本当に素晴らしいことだと思っています。



地域福祉コーディネーター配置当初の印象は？

林

コーディネーターの配置当初、私は大きな戸惑いを感じました。今までの社協にない新しい職種で、「地域に出ていく人」と聞きましたが、すでに民生委員が地域の相談役として活動している中で、その方たちが相談を受けるってどう考えたら良いか、わからなかったんです。同時にわがまちの活動が始まっていき、地域のいろんな方が集まってくれました。最初は話し合いばかりで、進めるのが難しかったけれど、地域のために何かしたいという気持ちを持った方が集まり、今では参加者も増え、地域のために同じ目標を持つ仲間と活動できていることを嬉しく思います。

平泉

コーディネーターが地域に来てくれた時、正直なところ、一番大事だと思ったのは「とにかく顔を出すこと」でした。社協って、外から見るとなんとなく距離を感じさせちゃう存在になりがちなんですよね。例ですが、散歩会や地域の清掃活動、あとはお祭りにも積極的に参加してもらえるようになって。会議以外の場で顔を合わせて、少しずつでもおしゃべりをしていくうちに、「あの人、ちょっと特別な人なのかな？」じゃなくて、「ああ、地域の一員だね」って、そうやって少しずつ地域に溶け込んでいってくれたのが、本当に嬉しかったですね。

地域福祉コーディネーターとの思い出エピソード

飛澤

印象に残っているのは、あるイベントの後の反省会のことですね。そこには課長さんやコーディネーターの方たちも来てくださってたんですけど、びっくりしたのが、ただ座ってるだけじゃなくて、自分から進んで焼き鳥を焼いてくれたりして、すごく場を盛り上げてくれたんですよ。しかも、私たちと同

わがまちの立ち上げ当初の印象と思い

飛澤

立ち上げるときは、会議などで小中学校をよく使わせてもらって、本当に地域の皆さんの協力があってこそだったんです。最初の頃は色々あって、私、何も知らないまま参加していたのに、なぜか会長にされちゃって(笑)。「支えあい協議会」って名前を決めるときも一悶着。候補も「支えあいネットワーク」とか色々あったけれど、最終的に「会長が決めて」って言われて、隣にいた「横文字は嫌!」って顔のおばちゃんを見て、「じゃあ協議会で…」って決まったんです。

平泉

最初に押立のわがまちのビブスを見たときは、衝撃でした。それまで地域活動なんて全く縁がなかった人間からすると、「えっ、こんなに本格的にやってるの?」って。私たちの拠点は、もともとはお花屋さんだった場

所を使わせてもらってるんです。地域の方が「ここ、使っていいよ」って言ってくれたのがきっかけで。毎週火曜日にサロン活動するのが習慣になって、今も続いているんですよ。実は私も最初は、地域の活動って面倒くさそう…って思ってたんです。でも、やってみたら人とのつながりが本当に温かくて、気づけば自然と関わるようになっていました。

林

最初の頃は、自治会の方やシニアクラブの方、PTAの方など、いろんな人が参加していたのが印象的でした。まずこの会で何をしましょうかと目標を決めようとなり、スローガンを決めることから話し合いました。地域のために何かしたいというお気持ちを持った方が集まってくださって、活動が徐々に形になってきて、地域の中に根付いていったなあという感じがすごくあります。

地域福祉コーディネーターに今後期待すること

林

わがまちの中で「こうしたい」「ああしたい」っていう前向きな声が少しずつ出てきていますよね。そういう意見をただのアイデアで終わらせずに、ちゃんと具体的な活動につなげていけるといいなと。そうすれば参加者の皆さんも「楽しいな」「また来たいな」って思えるような、魅力的な活動がどんどん生まれていくと思います。議事録を作ったり、裏方の調整役としてこれからもお願いできると助かります。

飛澤

今、子ども食堂や寺子屋、お祭りなど地域活動のなかで、高校生ボランティアとの橋渡し役をしてもらっています。高校生にはいろんな役割をお任せしているので、間でうまく調整してくれているおかげで、スムーズに進んでいます。そこはとてもありがたいです。地域福祉って高齢者に向けられがちですが。もう少し若い世代のはつらつとした姿を見れるといいですね。世代間の隔たりをなくしていけたらいいなあ。

平泉

参加者の「やってみたい」「手伝いたい」という気

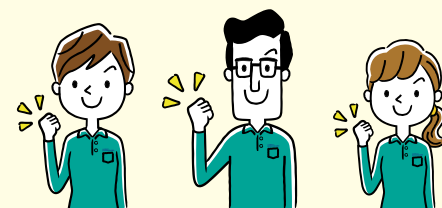
持ちを引き出して、それを具体的な活動につなげることをお願いしたいです。社協ではアンケートを取ったり、ボランティア募集を掛けたり、色々してくれているけれど、もうワンプッシュ。新しく入って来られた方達が何を望んで参加されたのかが見えてくるといいですね。できる事があれば、一緒に新しい活動にチャレンジしてみても、ね。

菱沼先生

今、わがまちが世代交代の時期に差ししかかっていて、これからの進み方をしっかり考えていくタイミングにあると思っています。そういった中で、コーディネーターの動きは重要です。学校をはじめ、さまざまな機関との調整役を担ったり、活動したい人の思いを丁寧に汲んでもらって、具体的な活動を考える力はわがまちに繋ぐ。「じゃあ、やってみよう」と行動に移す力はわがまちの方が持っていると思うので、新しいつながりを生み出してもらおうといいなと。コーディネーターも新しい人が増えているので、わがまちをどんな思いで立ち上げたのか、歴史を知ってもらった上で、支えてもらえればいいかなと。地域の方々にも一緒に育ててもらえたらありがたいです。

年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度
わがまち設立経緯	課題発見・解決志向型の地区社協モデル事業の受託（H26～） 準備委員会（H26～） わがまち懇談会（モデル地区以外）	押立車返ささえあい協議会（4月） 準備委員会の開催（モデル地区以外） ※各エリア設立まで継続各活動の開始		ささえあい四谷（4月） 	住吉・分梅・南町 ささえあい協議会（4月）		わがまち支えあいの会～小柳・是政・清水が丘エリア～（6月） 中央ささえあいの会（4月）	ささえあいの会～白糸台・若松町・清水が丘・小柳町～（4月） 新町ささえあいの会（4月） 武蔵台・北山・西原ささえあいの会（4月） にしふエリアささえ愛の会（4月） かたまちささえあいの会（4月） わがまち ありすの会～朝日・多磨・紅葉・若松～（4月）	年表 平成27年度～令和6年度 Fuchu City Council of Social Welfare ※Co：地域福祉コーディネーター SC：生活支援コーディネーター 		
Co 状況 受託	※他事業との兼務で、11エリアに配置（委託なし）	2名	3名	4名	6名		6名	11名	13名 （統括1名、拠点12名）	16名 （統括1名、拠点14名、リーダー1名）	19名 （統括1名、拠点16名、リーダー2名）
SC 配置 の経緯	※1層は専任 2層はCo兼務	1層 1名									
		2層 2名	2層 3名	2層 4名	2層 6名		2層 6名	2層 11名			
困りごと相談会の実施		武蔵台（11月）							週3日（2月）		
		押立（11月）									週3日（10月）
			住吉（11月）						週3日（11月）		
				紅葉丘（11月）						週3日（3月）	
					新町（9月） 片町（9月）			週3日（2月）			
								中央 是政 白糸台 西府 四谷		週3日（12月）	
											週3日（10月）
主な事業		地域福祉コーディネーター活動事業（受託）									
		生活支援コーディネーター事業（受託）									
	ふれあいいきいきサロン事業（H26～）										
		地域なんでも相談員の養成									
		わがまちタウンミーティングの開催									
	地域福祉活動助成金事業										
								支援対象児童等見守り強化事業（受託）			
									住宅セーフティネット住まい相談事業（受託）		
福祉の制度	生活困窮者自立支援制度 介護保険法改正（生活支援体制整備事業が創設） 子ども・子育て支援新制度 新オレンジプラン（認知症施策）	社会福祉法改正（「地域共生社会」の理念を法に明記） 障害者差別解消法施行	改正社会福祉法施行（生活支援コーディネーター配置、協議体設置を努力義務化） 生活支援体制整備事業の全国展開 社会福祉法人制度改革	地域包括ケア推進 福祉人材確保対策強化（介護人材処遇改善加算拡充）			社会福祉法改正（重層的支援体制整備事業創設）	改正社会福祉法施行（重層的支援体制整備事業本格実施）	生活支援体制整備事業運用見直し・担い手育成強化		
社協の動き	第3次地域福祉活動計画策定（H27～R2） 府中ケアサポートセンターの統合 若年性認知症家族の会開始		子ども発達支援センター あゆの子しみがおか分室開始	ふれあい会館の移転	マスコットキャラクター ふわり誕生		権利擁護センター中核機関を受託 しみがおか高齢者在宅サービスセンター閉館 あゆの子分室終了	第4次地域福祉活動計画策定（R3～R8） 府中ケアサポートセンター移転	第42回福祉まつりをけやき並木で初開催 地域包括支援センターしみがおか移転	創立60周年	地域包括支援センターおしたてへ名称変更 子ども発達支援センターはばたき事業の受託
社会の動き	マイナンバー制度開始 北陸新幹線開業 東日本大震災で被災した石巻線が全線で再開	伊勢志摩サミット リオデジャネイロ五輪 熊本地震	民生委員制度創設100周年記念大会	第4次安倍内閣 平昌五輪 北海道胆振東部地震 大阪北部地震 西日本豪雨	消費税が8%から10%へ ラグビー W杯日本開催		菅内閣発足 豪雨災害 新型コロナ拡大・緊急事態宣言 レジ袋有料化	東京2020オリンピックパラリンピック 岸田内閣発足 新型コロナウイルスワクチン接種開始	ロシアのウクライナ侵攻 成人年齢が18歳に引き下げ	新型コロナ「5類へ移行」 物価高騰問題	能登半島地震 石川県豪雨災害 石破内閣発足

目次



- はじめに
- 対談

第1章 コーディネーターとは

コーディネーターとは..... 1

困りごと相談会

- ① 相談会の概要 2
- ② 実際の事例 3
- ③ 市民からの声 4

第2章 わがまち支えあい協議会の取り組み

わがまち支えあい協議会とは 5

各圏域の歩み

- 紅葉丘文化センター圏域 6
- 白糸台文化センター圏域 8
- 押立文化センター圏域 10
- 是政文化センター圏域 12
- 新町文化センター圏域 14
- 中央文化センター圏域 16
- 片町文化センター圏域 18
- 武蔵台文化センター圏域 20
- 西府文化センター圏域 22
- 住吉文化センター圏域 24
- 四谷文化センター圏域 26

第3章 市内全域での取り組み

わがまちタウンミーティング 28

地域なんでも相談員 29

Connectふちゅう 30

第4章 資料編・各事業の実績等

困りごと相談会 31

コーディネーター活動実績（個別支援） 32

相談内容の分類 33

実相談対象者数・分類 34

コーディネーター活動実績（地域支援） 35

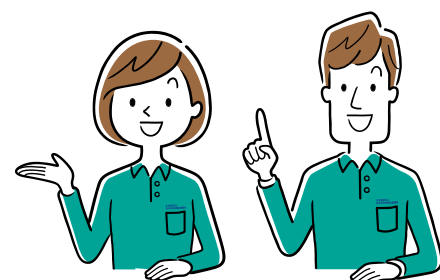
わがまち支えあい協議会の開催状況 36

わがまち支えあい協議会による地域活動 37

外部会議・研修等への出席状況 38

入門研修・助成金交付・サロンマップ実績 等 39

●これからの10年に向けて 40



コーディネーターとは

地域福祉コーディネーターは、制度の狭間にあるような困りごとを抱えている方の社会的孤立の解消を目的とした一人ひとりに寄り添った生活支援（個別支援）や、地域住民が一人ひとりの困りごとを地域全体の課題として捉え、地域住民が連帯意識を持って活動を作り出す支援（地域支援）を行う役割を担っている。

- 個別支援**
- 相談支援、アウトリーチ等を通じた課題の把握
 - 課題を抱える方に対して、本人やその世帯の状態を把握し、公的サービスやボランティアなどに適切につなぎ、課題の早期解決へ向け支援
 - 必要に応じて見守り支援などによる伴走支援
 - 地域で社会的なつながりから孤立し、社会資源に結び付いていない人々に対し、収集した情報の整理分析を行い、生活課題を抽出する。
 - 支援関係機関とのカンファレンス等を行い、支援関係機関と役割分担や支援の目標・方向性について協議

- 地域支援**
- 地域の状況把握
 - 課題解決のための地域福祉活動の組織化の支援
 - 地域福祉活動の支援・協力
 - 新たな地域福祉活動の創出
 - 地域住民・地域団体との連携及び情報の提供と共有
 - 世代や属性を超えて交流できる多様な場づくりを関係機関等と連携

- その他の役割**
- 事業の周知や広報活動
 - 府中市生活支援コーディネーターとの連携

生活支援コーディネーターとは

日常生活圏域ごとに関係者のネットワークや既存の取組・組織等を活用しながら、地域における生活支援・介護予防サービスの提供体制の整備に向けた取組を推進する。

- ① 生活支援の担い手の養成、サービスの開発等の「資源開発」
- ② サービス提供主体等の関係者の「ネットワーク構築」
- ③ 地域の支援ニーズとサービス提供主体の活動の「マッチング」



困りごとと相談会

概要説明

「どこに相談したらいいかわからない」「誰かに聞いてほしい」といった、ちょっとした暮らしの心配事などを身近な地域で、相談できる場所として「困りごと相談会」を各文化センターで毎週開催している。平成28年11月に押立文化センターと武蔵台文化センターではじまり、令和3年度には11か所すべての文化センターにおいて開催。また、令和3年度には新町文化センターが週3日の開催に拡充し、令和6年度末時点では、7か所の文化センターで週3日の開催となった。今後は市内すべての文化センターにおいて、週3日開催としていく予定。
※各文化センターの開始年について、詳しくは年表を参照

困りごと相談会の機能

拠点機能

- 相談を受ける



- フードドライブの受付

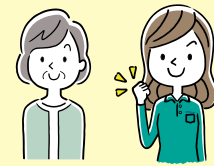


アウトリーチ機能

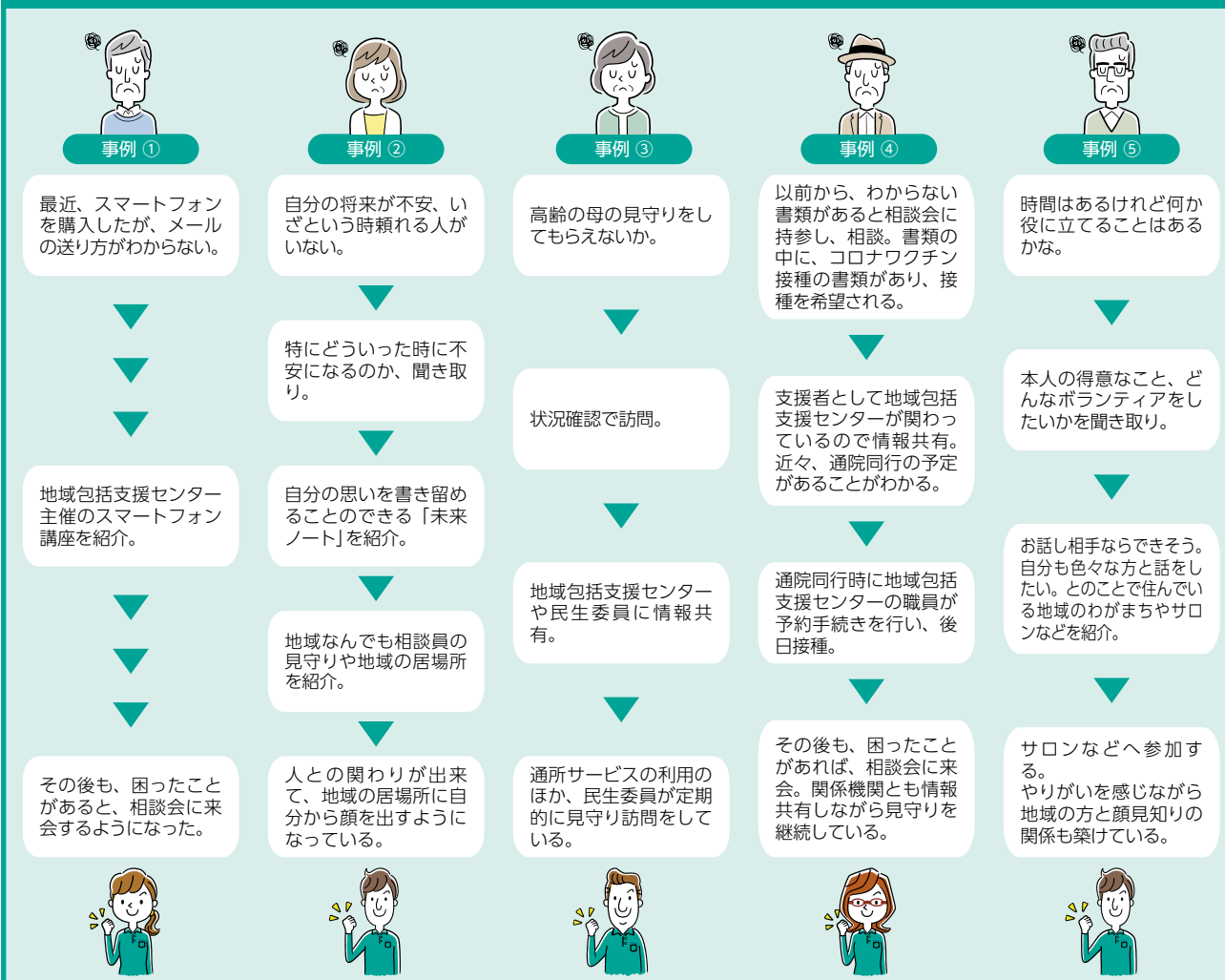
- 地域の方に聞き取り、情報収集



- 相談があった方への訪問



「困りごと相談会」からつながった例の紹介



解決に時間が掛かる相談事例

制度やサービス利用には結びつかない

当てはまるサービスがない、利用要件に当てはまらない、希望と合わない等から利用に至らない場合に、別の社会資源を見つけることに時間を要する。

相談したい内容が明確でない

自身では困りごとの整理ができず、何から手を付けたら良いかわからない。整理をすることや、取り掛かるものを見出すことに時間を要する。

複雑・複合的な問題を抱えている

家族それぞれに問題を抱えていて窓口がバラバラになっている場合は、時間を掛けて情報の整理をした後に、解決の方向を見出していくこととなる。

困っていることを表面化することが難しい

周囲から見て疲弊している様子などから、支援を受けることを提案するも「困っている」という認識が持ちにくい方もいる。

Coの支援例

伴走支援

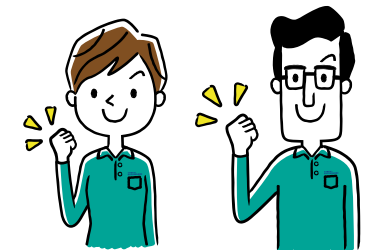
本人と相談内容を整理しながら、主たる窓口を案内するに留まらず、時には一緒に手続きを行う、同行するなどの伴走支援をしている。

定期訪問

定期的に訪問し状況を確認するなど、継続的に様子を確認している世帯もある。

地域の活動や支援者へつなぐ

様々な角度から支援について検討し、様々な制度やサービスの紹介に留まらず、地域活動や地域の支援者への繋ぎを丁寧に行っている。



支援方針が立っても、本人の意向やタイミング等から、1つの相談事を解決するために時間が要することが多数あり解決までに10年を要したケースもある。

勇気を出して窓口に来てくれた相談者に対し、傾聴しながら関係を作り、困りごとを引き出し、解決に向けて動く中で、コーディネーターは調整役として重要な役割を担っている。また内部での情報共有を図り、1人のコーディネーターではなく、チームとして、相談者の支援を進めている。

「困りごと相談会」について市民からの声



相談者①

相談会で話してもいい内容かどうか分からなかったけれど、思い切って行ってみたら、話を親身に聞いてもらえて、気持ちが軽くなった。



相談者②

近所に庭木が伸びていて心配な家があったので相談をした。その後上手に関わってもらえたようで、しばらくしたら本人が庭木を切ってくれて解決した。



なんでも相談員

ちょっと気になることを報告しに行ったり、相談者が来ないときはコーディネーターと一緒に訪問をしたり、相談会に行くことが相談員活動の機会になっている。



わがまちメンバー

次の活動で使うチラシや打ち合わせの日程など、細かいことを、直接コーディネーターに確認できるので助かっている。



フードドライブ寄付者

家にあっても食べきれず困っていた食品を持ってきたら、わがまちの人が笑顔で受け取ってくれて「役に立てた」と思えて嬉しかった。



福祉関係者

週3日はコーディネーターが担当エリアの近くにいるということで、相談がある時にコーディネーターとすぐにやりとりができて、便利になった。

周知方法

- 周知物「チラシ」配布：市内全戸ポスティング、自治会回覧、各文化センター、掲示板の活用
- SNS発信：ホームページ、他SNSの掲載
- 広報媒体への掲載：市ホームページ、市報、社協広報物
- マグネットの配布
- 会議やイベントにて市民や関係機関へ案内

今後について

文化センターに行けば、「コーディネーターがいる」「話を聞いてもらえる安心な場所がある」ということを知ってもらい、頼ってもらえるよう支援力を底上げする相談対応体制を充実させていきたい。また、安定した開催ができるよう、各機関と調整をしていく。若年層への相談対応を充実させるべく、PRや関連機関との連携などを進めていきたい。



ポスティングの様子



困りごと相談会の様子

わがまち支えあい協議会

●立上げを目指すに至った背景

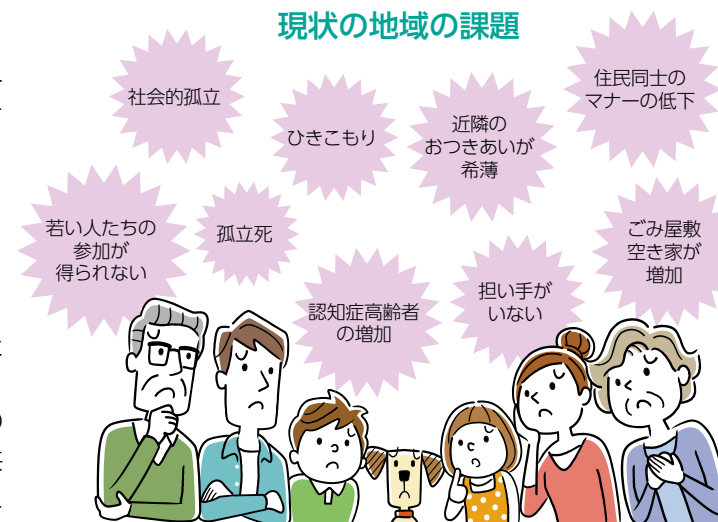
平成26年度に実施した話し合いや、アンケート等から、地域のさまざまな困りごとがわかってきた。(右図)

その中には、公的な制度では解決が難しい困りごともあった。

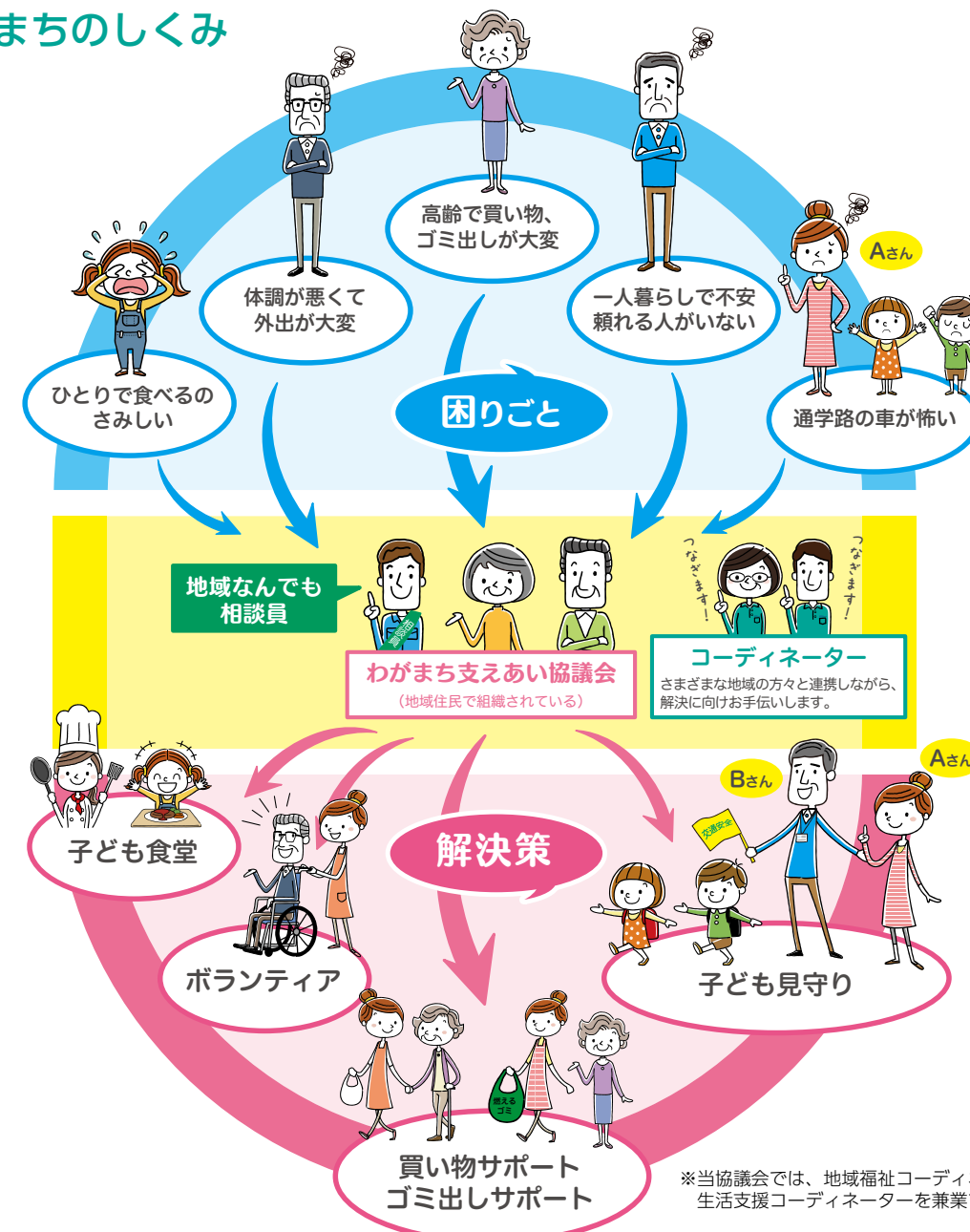
誰もが安心して自分のまちで暮らすためには、こうした個人の困りごとを「我が事」として捉え、一人ひとりの困りごとに寄り添い、解決に向けたしくみづくりが必要であることがわかった。

そこで、住民の皆さんのより身近な生活圏域の中で、住民自らさまざまな困りごとに気付き、共有し、一緒に解決していくしくみ「わがまち支えあい協議会」を立ち上げることになった。

現状の地域の課題



●わがまちのしくみ



※当協議会では、地域福祉コーディネーターと生活支援コーディネーターを兼業で担っています

紅葉丘文化センター圏域（朝日町、多磨町、紅葉丘、若松町3～5丁目）

わがまちありすの会 ～朝日・多磨・紅葉・若松～

スローガン

みんな知り合い、ウキウキワクワク そしてありがとう

活動目標

活動を通じてひとりぼっちでいる人と知り合い、つながるきっかけを作る。

どんな人でも活躍できる、お互いさまの活動を作り出す。

地域特性

自治会や住民活動が活発で地縁があることや、近くにアメリカンスクールや外国語大学があることから、多世代多国籍のつながりが育まれている地域。交通や買い物の不便な地域がある一方で、子育て世帯など若い世代が暮らし始めている地域もある。



メンバーの皆さん

わがまちの声



60代女性

勤務先での地域貢献をきっかけに会に参加しました。自身は、皆さんすごいな、と学びの場として関わっています。未だに色々な想いを持って参加する地域の方がいますし、新しい方も入ってきてくれる素敵な場所です。



40代男性

困りごと相談会でコーディネーターから会を紹介してもらい、何か力になれるかなと思い参加しました。仕事のすきま時間でしか参加できませんが、それでもいいと思ってくれる方々がいてくださり安心します。若い人にも気付いてほしいと思い、活動しています。



70代男性

個人的な困りごとがありコーディネーターとつながり、話すうちに会を紹介してもらいました。最初は顔を出すだけで参加しましたが、流れで今も活動を続けています。会に参加してから、どこで会ってもちょこっと挨拶できる関係の知り合いができたことが嬉しかったです。



50代女性

引越してきて友人がいないことを困りごと相談会で相談し、気がついたら会に参加していました。自分のできる範囲で活動していて、地域とのつながりができて、少しずつ知り合いが増えていきます。ヨガが好きなので、“ちょこつと”で、椅子に座ってできるヨガをしています。

活動の様子



てばなす



ちょこつと



ポスティング



互ちそう会



フードパントリー



ゆずり♡マーケット

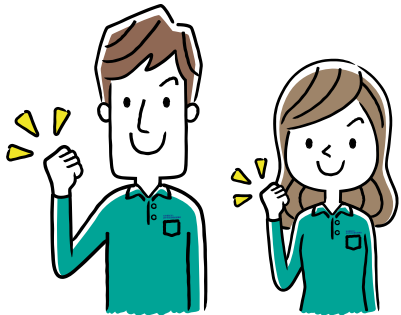


ありすの手

年度	活動名	始まったきっかけ(課題)	活動内容(やっていること、凡その頻度)
平成27	懇談会開始		
平成28	準備委員会開始		
平成29	アンケート	スーパーなどが少ない地域があり、買い物に不便との声があったことから、どの程度困っている方がいるか調査した。	準備委員の中にシニアクラブ「若杉会」のメンバーがあり、その会員を対象に買い物に関するアンケートを実施した。
平成30	お買い物ちょこつとお手伝い	アンケートの結果、スーパーが近くに無く、買い物に困る地域課題があったことがきっかけ。	お試しで買い物2か月に1回代行を実施。
	てばなす	子どもの発達について、不安な家族や地域の方が交流でき、地域住民の理解を深める場をつくりたいと声があがり立ち上がる。	親だけでなく地域住民も参加し、参加者から子育てなどの話を聞いたり話したりできる場を提供している。
	ポスティング	地域に会をPRしたい声があがる。	東京オレンジと協力してPRチラシを200部投函している。月1回。
令和1	ゆる〜い生活支援ありすの手	昨年度の買い物代行から、30分程度でできるお手伝いに拡大。	1回30分100円、身近な地域の人がお手伝いをし、住民同士のつながりを作っている。
	互ちそう会	メンバーより、「1人でご飯を食べることが寂しい、一緒に食べたい人があるのではないかと声があり、食を通じた交流の場を作ること。	スパイスカレー、皮から手作り餃子、ありすのtea time（コーヒーとお菓子）を開催。多世代交流の場となっている。不定期の実施。
令和2	フードパントリー	フードバンク府中の学生パントリーのニーズがあり、学生以外にも困っている人がいると把握したこと。	最初は1回のみ企画で開催したところ反響があり、定例化した。配布しながら利用者とつながりを作っている。2か月に1回。
	フードドライブ	フードパントリーを始めるにあたり、回収する必要性も出た。	地域住民や企業、学校などから食品寄付をいただいている。週1回、定例開催のほかイベント等で回収。R4より、小中学校での開催が始まった。
	みまもり隊	コーディネーターが若松小学校に訪問した際、学校側から登校見守りをしてもらえると助かるとの声があった。	府中工科高等学校前の横断歩道を見守る。その後シルバー人材センターが入ることになり場所を移動して続けている。現在は週2回。
令和3	準備委員会を終え団体として発足		
	学習会	みんなで活動をする上で参考になりそうなことを学びたいという声から開催。	ひきこもり学習会、交通安全講習会、認知症サポーター養成講座、発達障害交流会などテーマを変えて実施している。
	ちょこつと	世代を問わずほっとできる居場所をつくりたいメンバーの声をきっかけに開催。	「座ってできるヨガ」、「ハーモニカ演奏で歌いましょう」、「健康麻雀」などを行っている。
令和6	ゆずり♡マーケット	会の担い手募集と私物整理のお手伝いを目的に、ガレージセールを企画することになった。	単独開催や地域イベントに参加して開催。家にある捨てるにはもったいないものを持ち込んでもらい、欲しいものを無料で持ち帰ってもらう。不定期の実施。

コーディネーターコメント

わがまちありすの会では、スローガンにある「ウキウキワクワク」の気持ちを大切に、あたたかい雰囲気活動を継続している。最初は利用する側として関わっていた方が、今では会の活動を支える存在になっている等、“どなたにも活躍してほしい”というメンバーの想いが仲間を増やしてきた。メンバーやコーディネーターが常に地域にアンテナを張り、表出したエリアの地域課題に対して、自分たちができることを話し合い、活動につなげている。会が立ち上がってから4年経ち、地域へ徐々に浸透していると感じているため、今後も地域との接点を増やせるよう共に動いていきたい。



白糸台文化センター圏域 (小柳町1・3丁目、清水が丘3丁目、白糸台(車返団地を除く)、若松町1・2丁目)

ささえあいの会 ～白糸台・若松町・清水が丘・小柳町～

スローガン

世代を越えて顔見知りに

活動目標

地域の人同士でできる助け合い活動を盛り上げていく
ささえあいの会の活動を地域へ浸透させる

地域特性

京王線、西武多摩川線の利用が可能で交通の利便性が高く、甲州街道沿いにスーパーやドラッグストア、各種大型店舗もあり、生活にも便利。閑静な住宅街が広がる地域も多く、とても住みよい地域。便利な地域である一方、マンションが多く、住民同士の交流が生まれにくいところもある。



メンバーの皆さん

わがまちの声



70代男性

社協のボランティア募集に応募して参加したのがきっかけです。
わがまちの準備委員会に参加し、その後、会発足時に代表となりました。
会のメンバーの協力を得て、地域の皆様との交流を拡大・充実させることを目指して活動しています。



70代女性

送られてきた社協のアンケートがきっかけで、電球交換を依頼し、ささえあいの会にご縁ができ、人に喜んでもらいたいと今度は会員としてお手伝いできることになりました。会の仲間や地域のみなさんとの交流も本当に楽しいです。そばにはいつも社協の支えがあると感じます。



70代男性

70歳過ぎに社協の講座「上手に老いるため」の中で社会参加の重要性を聞いたことが参加のきっかけです。活動メンバーと意見交換をし、決めたことを実行することは充実感があり、やりがいを感じています。地域のつながりで、「誰かを助けたり、誰かに助けてもらえる」というお互い様の社会が広がると良いと思います。

活動の様子



ちょこっとお手伝い



若松小の見守り活動



みんなの居場所わかまつ



カバさんのおそうじ



みんなのひろば



みんなのつどいしらいと



たちばな元気かい

年度	活動名	始まったきっかけ(課題)	活動内容(やっていること、凡その頻度)
平成27	懇談会開始		
平成28	準備委員会開始		
	みんなのつどいしらいと	「子育て世代の方々とながらるきっかけ」として多世代が参加できる居場所づくりをすることから始めた。	どなたでも参加できる地域の交流の場。体操やレクリエーション、季節の工作等の活動。おしゃべりコーナーもあり、自由に過ごせる。
令和1	ちょこっとお手伝い	地域からの、ちょっとお手伝いしてほしいという声に応え、活動を通じて地域とつながるために試行的に開始。	庭木の剪定、買い物のお手伝い、換気扇掃除、電球交換など。地域の住民同士の繋がりを大切にしている。
令和2	若松小学校登校時見守り活動	学校より「登校時に危険な横断歩道があり、地域でもお手伝いしてもらえると嬉しい」との話があり、始めた。	毎週1回、自衛隊基地付近の交差点で活動。子どもたちに、挨拶、声掛けをしながら見守っている。
	地域アンケート	より多くの方に知ってもらう、担い手を増やすために実施。	配布部数：4,600部 回収：133部
令和3	準備委員会を終え団体として発足		
	ちょこっとお手伝い説明会 ※現在の名称は協力者説明会	アンケートから地域活動に興味がある方を中心に、活動を知っていただき、協力いただける方を募るため。	ちょこっとお手伝いに焦点をあてて説明。R3、R5開催。
	フードドライブ	活動協力している子ども食堂グレイスキッチンの支援として開始。	みんなのつどいしらいと等の活動時に回収している。
令和4	みんなの居場所しらいと (R6.6で活動終了)	困りごと相談会の来所者より「ちょっとしたことを定期的に話ができる場所がほしい」という声があった。相談会と同時開催し、地域の中での繋がりがつくり、孤立孤独の解消を目指した。	月1回、白糸台文化センターで誰でも自由に過ごせる居場所を提供していた。現在はR6に開始した「みんなのひろば」へ形を変えて引き継がれている。
	地域アンケート	より多くの方に知ってもらう、担い手を増やすために実施。	配布部数：6,248部 回収：336部
令和5	みんなの居場所わかまつ	自治会主催の子どもを対象とした居場所「いこうひろば」を発展させ、参加者を限定せず誰でも自由に過ごせる居場所の必要性が高まっていることから、対象を限定しない居場所を新たに開始。	月1回、関野原自治センターで、年齢問わず自由に過ごせる居場所を開いている。子どもは外遊びに飽きるとゲーム等、大人は脳トレのために健康麻雀やおしゃべりを楽しんでいる。
	たちばな元気かい	以前は高齢者向けに運動の機会を提供する場があったが、世代を限定せず、誰でも参加可能な場所にしたいとの思いから、わがまちの活動として編入した。	月2回、たちばなの園白糸台で、手のひらバレーや体操で日々の運動不足を解消できる居場所を提供。地域の方同士の交流を楽しんでいる。
令和6	カバさんのおそうじ	わがまちの活動が地域へ浸透しておらず、担い手や利用者が増えないという課題があった。今後の活動を維持、発展させていくためにも必要であると考え、開始。	白糸台文化センターのキャラクターが「カバ」であることから、オリジナルにキャラクターをデザインしたビブスを製作。ビブスを着用して会のチラシを配布したり、まちの清掃活動をしている。
	みんなのひろば	「みんなの居場所しらいと」を始めて約2年、利用者が少なく改善が必要とされた。対象者を困りごと相談会に来た人に限定せず、誰もが気軽に立ち寄り交流できる場所とすることを目的とし、会場や内容を変えて新たに立ち上げた。	リレ府中白糸台で、ゆるい体操で体をほぐし、手のひらバレーを笑いながら楽しみ、合唱で癒されるひとときを提供している。

コーディネーターコメント

年々、活動内容の幅を広げ、内容も充実している。活動に関わる人も着実に増えており、地域に浸透しつつあることを感じている。この会は、メンバー一人ひとりの思いが強く、地域住民により良い居場所や活動を提供するために常に真剣に話し合いを重ね、積極的に活動に取り組んでいることが魅力。その熱量が伝わり、近くの保育園ではチラシ印刷をしてもらったり、高齢者施設では、会議や活動時に場所を貸してもらうなど、協力を得ることができている。今後もメンバーの思いに寄り添い、支えあいのまちづくりを進めていきたい。

押立文化センター圏域（押立町、車返団地）

押立・車返ささえあい協議会

スローガン

ささえて ささえられて OK っす！

活動目標

地域みんなが幸せになれる、支えあいのしくみづくり。
OKSを地域の方々に知ってもらう。
課題解決に向け一緒に活動してくれる仲間を募る。
地域の方が楽しんで参加してくれるイベントを開催する。
スタッフが楽しく活動できる会にする。

地域特性

大規模団地やマンションが多く建ち並び地域、昔からの戸建てが多い地域、多摩川に近く水害が心配されるエリアがあるなど、それぞれ住民の関心や、抱える課題等が異なる地域。
地域の拠点となる文化センターと住民が多く住む地域が離れている。



メンバーの皆さん

わがまちの声



60代男性

「新たな仲間との出会い」を楽しみに参加しました。利害関係がないメンバーだからこそ自由な発想で活動にトライできます。失敗してもいいんです。トライ&エラーを繰り返すことで地域が醸成していきます。



70代男性

定年後の身の置き場を模索している中で、出会ったのがわがまちでした。当初は会議ばかりで「多様な人達の集まり」には混乱しました。振り返ると会に「企画、立案、実行をけん引する人」がいてくれたから今があると改めて感じています。居心地が良いので、まだしばらく居座るつもりです。



70代男性

長年の会社勤めを卒業し、関わりがなかった地元への地域貢献活動をやってみようと思い、わがまちに参加しました。主に参加している小学校の下校見守りでは子どもたちから元気をもらい、将来を担う子供たちのために活動できることにやりがいを感じています。

活動の様子



南白小下校時の見守り



にこにこカフェ



地域の寺子屋



フードドライブ



フードパントリー



ちょこっとお手伝い



フレイル予防体験会



押立ホッとすぺーす



押立公園夏まつり



クリスマスイベント

年度	活動名	始まったきっかけや活動内容
平成26	準備委員会開始	
平成27	住民アンケート調査	エリア内のニーズを把握し、どんな取り組みをしていくか考えるため、アンケートを実施。H27、R2の2回実施。
	押立公園夏祭り 文化センター夏祭り	公園や文化センターで開催されている行事へ毎年参加している。多くのボランティアが参加し、焼き物やかき氷販売などを通じて地域の方との交流や、会のPRを行う。押立公園夏祭りと時期が重なることから、文化センター夏祭りにはH27～29の参加となっている。
平成28	協議会立上げ	アンケート結果から、地域で必要とされる活動について協議を重ね4部会を設置した。
	立ち上げ報告会	アンケート結果報告や、会の趣旨説明、大学教授の講演などを実施。
	にこにこカフェ	自治会のない車返団地2街区で、「気軽にしゃべりができる場がほしい」という声があったことから、誰もが自由に参加できるサロンを立ち上げた。月1回の開催。
平成29	サロン交流会	居場所づくりを広め、新たなつながりや仲間を見つけるため、エリア内のサロン活動を紹介し合い、意見交換を行った。
	防災訓練・講座等への協力	防災をきっかけにささえあいの意識を広めるために、自治会等が開催する防災訓練・講座等に協力した。R3年までの実施。
	押立文化センター文化祭	文化センターで行われる文化祭にて、パネル展示等、会の活動PRを行っている。
平成30	ちょこっとお手伝い	H29から先行事例の視察、担い手集め、試行的に実施、協議を重ね、仕組みを作ってきた。地域で顔見知りの関係を作ることを目的に、30分程度のお手伝い。
	わがまちカフェ ボランティア交流会	活動に関わる人や、今後活動してみたい人たちを募り交流する会を不定期に開催してきた。
	この指とまれ唄サロン	元々地域で行われていたサロンをわがまちの活動とするようになったが、R2からは独立して活動している。歌を歌いながら楽しく過ごせる居場所。
	男の料理教室	定年退職後の男性が、気軽に地域参加できるきっかけを作るため、男性限定の料理教室を開催。 ※R2以降は開催なし
令和1	地域の寺子屋	子どもが自由に来て、宿題や勉強ができる居場所として開催。学生ボランティアも参加しており、子どもたちの地域交流の場となっている。
	防災講習会	自宅での避難生活、防災について、講師を招き、実践的なワークショップを開催。
令和2	フードパントリー・ドライブ	コロナ禍で食の確保が難しい子育て世帯が増えていたことから、始まった。月1回。現在は原則子育て世帯を対象としている。不定期で高齢者向けにお米を中心に食品配布をする活動も行っている。フードドライブについては、保育園や高校からの協力、イベント、JOIN、相談会などで実施している。
	あそぶすばこ	未就学の子と親が、一緒に過ごせる場所が近くにあまりなかったことから開設され、交流の場を提供してきた。
	南白小下校時の見守り	小学校の先生から、「信号がない交差点があり、交通量も多いことから児童の下校が心配」という声があったため、見守りを開始した。R5から週2回に増回した。
	謎解き地域ラリー	コロナ禍で子どもが楽しめる地域行事が全て中止になってしまったため、子どもたちが楽しみながら地域を知ることができるイベントを、地域の自治会との連携で開催。
令和3	クリスマスイベント	コロナ禍でも家で楽しんでもらおうとオンラインで開催した。翌年以降は対面開催となり、ここ数年は小中学校の体育館へ会場を移し、大勢の人が集まる交流イベントとなっている。
	子どもお楽しみ会	夏休みや春休みなどに、子どもが遊べて楽しめるイベントを開催。
	まち歩き	地域を知る機会を作り、新たな参加者をつなげる為に文化センター周辺のまち歩きをした。
	アルファ米お渡し会	災害用備蓄の体験と、会の活動を知ってもらう為に当年度3回実施した。その後は、パントリー実施時など不定期に配布している。
	スマホ教室	スマホについて問い合わせがあり、他にもニーズがあるのではと思われ実施した。
	ワクチン接種予約お手伝い	スマホ教室で、ニーズが聞かれたインターネットでコロナワクチン接種の予約ができない地域住民向けに、予約のお手伝いをした。(R3のみ)
	映画上映会	福祉的なテーマの映画を上映し、住民や福祉教育関係者の学習の機会とした。
	自治会長との懇談会	謎解き地域ラリーで協力してもらった自治会と今後の連携について懇談を行った。(R3のみ)
令和5	PR活動チラシ配布	イベントなどの開催チラシを、地域を歩きながらポスティング、また団地商店街や駅前などでチラシを手渡し等でPRした。
	押立ホッとすぺーす (こども食堂)	月1回。季節に合ったメニューを提供。工作コーナーや遊びコーナーも用意され、子どもや親の交流の場となっている。R6から独立。活動協力をしている。
	地域 BBQ	地元企業の協力を受け、駐車場を借りて実施し、子育て世帯や地域の方と交流した。
令和6	フレイル予防体験会	高齢者向けにフレイル予防を学ぶ講座を3か所で開催。
	カレーパーティー	押立ホッとすぺーすと共催。アルファ米で炊いた米を使ってカレーを提供。かき氷やビンゴ大会も開催して多くの子どもが集まった。
	講演会	講師をお呼びして発達障害の講演会を開催。発達障害の子の親から地域住民や、保育士、教育関係者など、様々な方が参加。

コーディネーターコメント

押立・車返ささえあい協議会は初めに立ち上げてから、定期的な活動が続けるだけでなく、地域のニーズに合わせた新しい活動に積極的に取り組んでいる。イベントでは、学生ボランティアも協力し担い手の世代間交流が生まれ、参加する人々も年齢・性別問わず様々な方と一緒に地域交流ができている。参加者も担い手として活躍するなど、支えあいの仕組みが普及しつつあるため、今後も地域との関わりを大切にしながら、共に支えあう地域づくりを目指していきたい。

是政文化センター圏域（小柳町2・4～6丁目、清水が丘1・2丁目、是政）

わがまち支えあいの会 ～小柳・是政・清水が丘エリア～

スローガン

住民同士の助けあいの意識を広める
今あるサービス、支援では拾いきれない課題に対応していく

活動目標

市民が支えあい、助けあい、みんなが住み良いまちになるよう、地域・世代を超えた交流の輪を広げ、活動すること。

地域特性

東府中駅と多磨霊園駅の周辺には商業施設があり、一人暮らし高齢者や子育て世帯など、多彩な家族が暮らしている。主要駅から離れた地域では戸建て住宅やアパートが多く、地縁組織へ加入する方も減少してきていることから人とのつながりが希薄になってきている。



メンバーの皆さん

わがまちの声



40代男性

福祉まつりでコーディネーターの方と知り合い、わがまちの活動に参加するようになりました。地域の先輩方が快く迎え入れてくださり、働く世代として多くを学び、困りごとの解決に関われることにやりがいを感じています。ぜひ、同年代の方々にも関わって欲しいです。



70代女性

以前に暮らしていた町では子どもを通じて友人、知人もいましたが、引っ越してくると人間関係が途切れてしまいました。ボランティア活動で地域に知り合いが出来ればと思って参加しました。私と同じように、地域で知り合いが出来て喜んでくれる方がいるとうれしく思います。



80代女性

社協のアンケートで「お手伝いできる」と回答したことがきっかけで参加しました。活動に参加して色々な方とお友達になりました。近くで暮らしているのに知らなかった方とも知り合いになれることが活動の楽しさです。

活動の様子



八小登校時の見守り



縁側サロンこれまさ



わがまちふれあい散歩会



小柳町支えあいの会



ひがしふちゅう駅前こども食堂



ちょこっとお手伝い



あいさつし隊

年度	活動名	始まったきっかけ(課題)	活動内容(やっていること、凡その頻度)
平成27	懇談会開始		
平成28	準備委員会開始		
平成29	小柳町支え愛の会 南府中自治会エリア	身近な地域で行える支えあい活動として、高齢者の生活支援に着目して活動開始。(R1よりわがまちの活動として引き続き取組む)	30分程度のちょこっとお手伝い、「かじやま」のつどい、小柳小パトロール、地域活動(自治会・包括支援センター)の補助。
	あいさつし隊	わがまちのスローガンである「住民同士の助けあいの意識を広める」ことを目的に地域の商業施設にて会のPR・あいさつ活動を開始。※R6年からは、活動形態を散歩会に統合。	毎月1回、地域の商業施設(さえき是政店・ウェルシア是政店)に活動協力をいただき、会のチラシを配布しながらのあいさつ運動。
	八小登校時の見守り	小学校の校長先生より課題提供を受け活動開始。	週に1回(週初めの登校日)、車の出入りが多い街道沿いのコンビニエンスストア付近での登校時見守り活動。
平成30	ひがしふちゅう駅前 こども食堂	「地域の中で困難を抱えている子どもたちの心の支えとなる、安心できる場所を作る」ことを目的に活動開始した。R1より独立しており協力活動の位置づけ。	毎月1回、こども食堂の開催。食事の提供の他、待合スペースでの学習支援や遊びなど、子どもや子育て中の親子が地域とつながる場を提供。
	文化センター夏祭り 地域文化祭	わがまちをもっと知ってもらいたい。地域団体や自治会とわがまちがつながる機会がない。	是政文化センターで行われる行事に参加し、地域の方と交流するとともにわがまち活動のPRを行う。
令和2	準備委員会を終え団体として発足		
	ちょこっとお手伝い アンケート	「小柳町4.5.6丁目のちょこっとお手伝いの担い手を募りたい。利用したいお手伝いの内容を知りたい」という声からを実施した。	配布部数：1,570部 回収：21部
	ひがしふちゅう駅前 こども食堂フードパントリー (協力活動)	コロナウィルス感染症の拡大により収入が不安定となった世帯が多くあるといった社会情勢を背景に活動開始。	食品や日用品の購入に困っているひとり親世帯を対象に食品や日用品をお渡しする活動。
令和3	地域懇談会	「地域にある生活課題を把握する」ことを目的に地域の地縁組織との情報交換会を行う。	地域の自治会やシニアクラブに声をかけ、地域生活で感じる地域の課題について話を伺う。
	フードドライブ	コロナ禍で必要とされた、パントリー活動に協力するために開始。	困りごと相談会やマンション等に協力を得て、食品等の提供を呼びかけ、回収を行う。
	小学校登校支援	子ども家庭支援センターより、小学校登校支援の課題提供を受け活動開始。	週1回、週初めの登校のタイミングで家庭まで迎えに伺い、小学校の校門までの道のりを一緒に歩く。
	保育園登園支援	子育て世代包括支援センターより、保育園登園支援の課題提供を受け活動開始。	週1回、家庭まで迎えに伺い、保育園に入るまでと一緒に歩いたり、抱っこをして登園を支援。
	小柳町支え愛の会 南町会エリア	R2のちょこっとお手伝いアンケートを経て活動者12名が集まり、「小柳町支え愛の会」が南町会エリアに拡大した。	地域住民を対象とした30分程度のちょこっとお手伝い。
	わがまちふれあい散歩会	地域の人と顔見知りになり、普段から声のかけあえる地域をつくることを目的にまち歩きを開始。	月に1回、会の広報としてチラシポスティングや、地域清掃を行う。
令和4	縁側サロンこれまさ	「地域で気軽におしゃべりができる場が欲しい」といったわがまち活動者の声を受け活動開始。	手芸やゲーム、麻雀、体操などを行いながらおしゃべりを楽しむ、つながりを感じる活動。

コーディネーターコメント

会のスローガンである「今ある制度、サービスでは拾いきれない課題に対応していく」ことを念頭に、「私たちの暮らす地域が暮らしやすい町になるように、私たちの出来ることを無理なく行っていく」という思いで取り組まれている。生活している地域によって課題や必要とされることも異なっており、メンバーは自身の暮らす地域の活動に参加したり、地域をまたいで活躍する方もいる。地域に暮らす住民が自らの手で住みよい町を実現していけるように共に歩んでいきたい。

新町文化センター圏域（新町、栄町、浅間町、幸町3丁目、天神町3・4丁目、晴見町3・4丁目）

新町ささえあいの会

スローガン

支えあい、助け合い、住みよい地域を

活動目標

地域住民が顔と顔の見える「つながり」を大切に、孤立しない、お互いにささえあえる地域をつくること。地域の子どもたちの安全を見守る。

地域特性

高齢化率が高く、都営住宅に高齢単身世帯や外国籍世帯が多く住んでいる。東西に長い地形で主要駅から離れており、移動は主にバスを利用。一方で自然が豊かで公園も多く、散歩などに適した環境。小規模な自治会や学校が点在し、大型スーパーやドラッグストアも複数あり、買い物の利便性は高い地域となっている。



メンバーの皆さん

わがまちの声



70代男性

当時、地域でサロン活動に参加していた際に、コーディネーターの方からお声がけをいただきました。私自身、サロン活動の経験があったため、サロンに参加していたメンバーが活動の中心となってわがまちの活動を始めることになりました。活動を通して、自治会の枠を超えて新町以外のエリアの方々ともつながりを持つことができ、とても良い経験になりました。また、現在は男性の担い手が少ない状況にあるため、今後はもっと男性メンバーの参加を促していきたいと考えています。



70代女性

社協のアンケートに回答したところ、コーディネーターからお電話をいただき、「何かお手伝いできることがあればやってみたい」と思い、活動に参加するようになりました。会の活動を通して、困ったことがあった時に“どこに相談すればよいか”が分かるようになり、地域とのつながりも感じられるようになりました。自分にできることがあるのなら、これからも続けていきたいと思っています。



60代女性

困りごと相談会で、自分の生活について相談をした際に、「新町ささえあいの会」の活動を紹介していただきました。参加することで、さまざまな人と関わることができ、刺激を受けています。会で知り合った方と町でお会いしたときには、自然と挨拶を交わせるようになりました。知り合いが増えることは、とても心強く感じます。子どもにしても、高齢者にしても、困っている方がいれば、少しでも力になりたいと思っています。

活動の様子



府中第六小学校見守り



木曜サロン



栄町金曜サロン



フードドライブ



ちょこっとお手伝い



ふれあいサロンほどうど



リビングせんげん

年度	活動名	始まったきっかけ（課題）	活動内容（やっていること、凡その頻度）
平成27	懇談開始		
平成28	準備委員会開始		
平成29	学童クラブへのアンケート	学童後、家で1人で親の帰りを待つ児童がいるため、何かできないかという意見や、学童クラブ利用者から18時以降も預かってほしいというニーズがあった。	新町小学童クラブ利用者へクラブが終了後、何時から何時まで週にどれくらい見守りをしてほしいのかについてのアンケートをした。
	ゆうやけ新町	アンケートの結果「週に1回でも見守り活動を利用したい」の意見があり、協議を重ね、学童後の見守りを実施することになった。	利用者を募集したが、応募がなく実施には至っていない。
	栄町金曜サロン	栄町在住メンバーから、木曜サロンは遠くまで行けないため、「エリア内一番端の栄町3丁目でサロンを作りたい」との意見があった。	居場所から、孤立を防止し近隣で支えあい、つながりをつくることを目的として、小物づくりやゲームを行っている。毎月1回の実施。
平成30	ふれあいサロンほどうど	天神町の方から、サロンを作りたいと相談あり。そこから、準備委員会に参加してサロンを立ち上げる。	身近な場所で気軽に集える居場所づくり。毎月1回の実施で、カラオケを行っている。
	木曜サロン	既存のサロンとしてH27年から活動していたが、会場を借りることができなくなり、H30年から準備委員会に参加して、会場を探す。	毎週1回実施。月に1度、大正琴の演奏会などイベントを実施。
	新町子どもカレー食堂（協力活動）	孤食が増えている。子どもだけでも来られる食事ができる居場所が必要のため。	毎月1回、子どもと大人の交流の場。
令和1	地域アンケート	ちょっとしたことで困っている高齢者がいるのではないかととのことで、アンケートを実施。	配布部数：1,570部 回収：21部
	ちょこっとお手伝い お試し活動	地域アンケートの結果を受けて、活動を開始。	地域住民同士の30分程度のお手伝いを通して顔の見える「地域のつながり」をつくり、「おたがいさま」で支えあえる地域をつくっている。
令和2	ちょこっとお手伝い 協力者説明会	活動を開始するにあたり協力者を募った。	
	新町子どもカレー食堂 フードパントリー（協力活動）	コロナ禍でもつながれること、出来ることをしたいという想いから。	食料を配布し、困りごとのある家庭とつながる。
令和3	準備委員会を終え団体として発足		
	府中第六小学校見守り活動	六小PTAから地域で通学の見守りをしてくれる人はいないかと相談あり。朝の登校見守りを、荷物が一番多い月曜日に実施することになった。	毎週1回、登校時間に活動を行う。赤いビブスを着用し、2つの場所に分かれて見守りを実施。R6には西府と合同で、見守りをより安全にするために交通安全教室を実施
令和4	地域清掃活動	メンバーが自主的にゴミ拾いをやっているという話を受けて、皆でやろうということになり開始。	毎月1回、赤いビブスを着て新町文化センターの周りを清掃している。
	フードドライブ	コロナ禍で会全体の活動が縮小。この時だからこそできること、困っている人に手を差し伸べたいとの思いから開始。	新町文化センター、各サロン開催場所、新町文化センター圏域内小中学校などで実施。
	フードパントリー	学校でのフードドライブで食品が集まったため、コロナ禍でもつながれること、出来ることをしたいとの思いで、開始。	食品を必要としている方に提供し、さまざまな課題を抱える世帯とつながりを作っている。食料が集まり次第、不定期で実施。
令和6	リビングせんげん	他のエリアでもサロンを始めたいという声があり、近くに住むメンバー2名を中心にスタートする。	毎月2回、内容は決めず、地域の方の居場所となっている。

コーディネーターコメント

「支えあい、助け合い、住みよい地域を」をスローガンに地域住民が顔の見える「つながり」を大切に、孤立しない、お互いにささえあえる地域づくりを行っている。地域の特徴として、高齢化率が高い傾向にあるので、現在は圏域内の4つの地域でサロンを開催している。会のメンバーは、年々増えているため、今後も1人1人の活動の充実や発展、また、高齢者以外の世代とも一緒に活動していきたい。

中央文化センター圏域 (寿町1・2丁目 (3丁目の一部) 幸町1・2丁目、府中町、晴見町1・2丁目、宮町、宮西町1丁目、八幡町、緑町、日吉町、天神町1・2丁目)

中央ささえあいの会

スローガン
みんなでささえあえるまちづくり
～困ったときはお互いさま・心のバリアフリー～

活動目標
孤立のない地域をめざし自分たちの町を住みよい町にするための
ささえあい活動を行う

地域特性

この地域は府中市の中心部にあり、約2万世帯が暮らす人口の多い地域。駅の近くには高層マンションが建ち、若い世帯や一人暮らしの高齢者など、さまざまな世代の人たちが一緒に生活しているのが特徴。また、社会福祉協議会や公共施設も多く、市民が集まりやすい地域となっている。

わがまちの声



70代男性

仕事引退後、子供がいないこともあって、社協の市民後見人養成講習受講を機に「準備委員会」へ参加。「ちょこっと支援」で感謝され活動の意義を実感しました。しかし、ボランティア故に考え方の相違で離脱者が出る課題もありました。次世代の参加が少なく、活動継続に不安を感じています。今後は、活動の認知度向上、必要な人への情報提供、そして賛同し参加する仲間を増やしていきたいです。



70代男性

社協のボランティア活動をしていたところ、準備委員会が始まり興味をもちました。以前から、年をとったら地域の役に立ちたいと思っていたので、ささえあいの活動の趣旨に賛同し参加しました。今後についてはこの活動を新しい方に繋げていきたいです。そして、地域で支えられる人、支える人が増えるといいと思います。



70代女性

コロナ禍前から地域活動に関心がありましたが、コロナ禍でしばらく活動ができませんでした。もともと人と関わることが好きで、最近は体力に合わせて、できることとできないことを無理なく分けるようにしています。人との関わりの中で、相手に喜んでもらえることに生きがいを感じており、人のため、自分のためにも地域活動に取り組んでいます。これからも自分のペースで、無理のない範囲で続けていきたいと思っています。

活動の様子



よるカフェ・つながり



フードパントリー



八幡町ささえあい談笑会



フードドライブ



ちょこっと支援



ちょこっと支援



メンバーの皆さん

年度	活動名	始まったきっかけ (課題)	活動内容 (やっていること、凡その頻度)
平成27	懇談会開始		
平成28	準備委員会開始		
	定例会が2部開催に	より多くの世代に知ってもらい、参加できる機会を創出するため。	昼の部と夜の部に分かれて検討。
平成29	福祉まつり参加	障害を理解してもらうきっかけづくり、障害のあるアーティストとの交流を目的に参加。	絵画/粘土パフォーマンス・意見記入ボード・わがまち活動のPRを行う。
平成30	ちょこっと支援アンケート	ちょこっと支援を検討するにあたり、そもそも必要とされている活動なのか調査。	配布部数：3,944世帯 回収：189部
	ちょこっと支援	アンケート結果をもとに活動を検討、ちょこっと支援開始。	電球交換やごみ出しなどの30分程度のちょこっとしたお手伝いを行う。
令和1	よるカフェ・つながり	障害があってもなくても、子どもも大人も、どなたでも集える居場所がほしいと、定例会夜の部の参加者から意見があった。	誰かと誰かの思いが繋がる居場所。日中は仕事等で忙しい方も参加できるよう、夜間、3か月に1回開催。R4より活動の需要があり2か月に1回の開催に変更。
令和2	準備委員会を終え団体として発足		
	PR活動チラシ配布	多くの方に会を知っていただく。つながり作りを呼びかけ、支えあいの意識を広めていく。わがまちに参加していただけるようにする。	スーパーや郵便局付近など、人が集まる場所に立ち、チラシを配布する活動を企画するも、コロナ禍によりR2は中止となる。R3よりメンバーによる戸別ポスティングなど開始。
令和3	中央ささえあい談笑会 ※令和5年12月に終了	中央ささえあいの会のことも話しつつ、メインは談笑を通して親睦を深めることを目的に始まる。	居場所の提供と、会の活動を知ってもらうPRの場。メンバーの意見交換や情報共有の場にもなっている。毎月1回開催。
	フードドライブ	コロナ禍でもできる活動について話し合う中で、食料支援の話題となり、実施することになった。	談笑会の会場や社協の窓口などで、回収。
令和4	フードパントリー	コロナ禍で子ども食堂やフードパントリーの活動が知られ、自分たちも始めようというメンバーの声から開始。	収集した物品を必要としている人に提供する中で、地域で課題を抱えた方と直接つながるきっかけをつくっている。
	PR活動 ラジオフューズ出演	メンバーとラジオフューズとの繋がりから、ラジオ出演の声が掛かり、参加した。	メンバー3名が出演、会の活動紹介を行った。
令和5	八幡町ささえあい談笑会	身近な地域で集える場所があると良いとの意見が挙がり、今まで開催がなかった地域で開始。	風船バレー、タオル体操、談笑、折り紙などを実施。
令和6	フードバンク府中への協力活動	フードパントリーの際に食料提供を受けているため、何か団体の力になれないかというメンバーの声から開始。	フードバンク府中の食料倉庫の棚卸・お米の仕分け・学生フードパントリーの手伝いを行っている。
令和6	ミニ福祉まつり	UR都市機構の声掛けから、府中市晴見町にある府中グリーンハイツの共用スペースにて孤独、孤立防止のため、地域住民がお互いに顔の見える関係づくりのきっかけとなることを目的に開催。	府中市高齢者支援課、UR都市機構、地域包括支援センター安立園、府中グリーンハイツ自治会、晴見町第2自治会、中央ささえあいの会、社協にて話し合い、それぞれの強みを生かして開催。引き続き、季節ごとのイベントを企画、開催していくこととなる。

コーディネーターコメント

中央ささえあいの会はもともと、昼の部と夜の部で、話し合いの場が2つある珍しい地域であった。市内中心の地域により、仕事帰りの方のニーズについて検討し、夕方5時半から始まるよるカフェを開いている。この時間なら参加できるという方も一定数いて貴重なコミュニケーションの場となっている。また、ちょこっと支援のニーズも多く、対応して下さるささえあいの会のメンバーも多い。PRの活動も積極的で、お祭りに出店しメンバー皆で覚えたバルーンアートを行い、小さい子どものいる世帯にも積極的にPRを行っている。こういったことにより、新規に参加される方も増えている。

片町文化センター圏域（片町、寿町3丁目、日鋼町、分梅町1丁目、本町、宮西町2～5丁目、矢崎町、美好町（3丁目の一部を除く）

かたまち支えあいの会

スローガン

地域住民や団体と顔の見える関係づくり

活動目標

地域住民や関係団体等との連携・協力により、地域の支えあい活動をひろめ、住民主体のまちづくりに寄与する。

地域特性

比較的交通の便が良く、公共施設も近くにあり便利な地域である。一方、分倍河原駅周辺は歩道が狭く、南北の行き来が不便である。緑が多く、四季折々の自然を楽しむことができる。また、歴史のある街であり、自治会やシニアクラブなどの活動が活発である。古くからの近所付き合いが残っている地域もあるが、集合住宅の増加や世代交流により、以前のようなコミュニケーションが取りにくくなっている面もある。



メンバーの皆さん

わがまちの声



70代女性

わがまちは困りごとの相談ができるというのが一番だと思います。ちょこっとお手伝いは、もっと依頼があってもいいなと思っています。地域にはもっと潜在的なお困りごとがあると思うので、活動を知っていただき、住民のつながりをつくっていただけたらと思います。



70代女性

「わがまち」というワードを知ってはいました。先に参加していた方に声をかけられて参加したのがきっかけです。準備委員会のときには、なかなか先が見えないという気持ちでしたが、ちょこっとお手伝いを始めたことで、活動の手ごたえを感じました。サロンなどまだまだこれから発展途上という部分もありますが、細く長く活動を続けていけたらと思います。



80代男性

定年を迎えて町内会役員となり、町内会の活性化のために、準備委員会に参加したことがきっかけです。みんなと一緒に話し合いをしていく中でたくさんの方に気づき、たくさんの方のことを学びました。「ちょこっとお手伝い」では、これまで経験してきたことで役に立てることは大変やりがいがあり、この充実感がボランティアを続ける支えになっています。近くに住む人が互いに困ったときにちょこっと気軽に手助けを頼みあえて、ハッピーになれる関係こそが活動を長続きさせるものだと思います。隣人と安心して暮らせるまちをめざしてこれからも一緒に学んでいきたいと思っています。

活動の様子



ささえ愛ぽかぽかサロン



ちょこっとお手伝い



PR活動



フードドライブ



フードパントリー



片文ささえ愛キャラバン

年度	活動名	始まったきっかけ(課題)	活動内容(やっていること、凡その頻度)
平成27	懇談会開始		
平成28	準備委員会開始		
	小中学校アンケート	わがまち支えあい協議会の趣旨・目的を周知したい・多くの人に関心をもってもらいたい・地域で何を必要とされているのかニーズを知りたいとの思いから実施。	圏域内の4つの小中学校でアンケート調査。小学5年生以上1,352人の回答。
平成29	地域の支えあいを考えよう～熱中症対策から～	広報のためにイベント企画。企業の協力が得られ、対象も広く時期的なタイミングをみて熱中症予防講座を開催することに決まる。	第1部は大塚製薬株式会社の協力を得て、熱中症予防講座・第2部は地域のつながりを考える懇談会を開催。
	地域の支えあいを考えよう～HUG体験から～片文ささえ愛キャラバン	イベントを通じて地域の中で顔見知りを増やし小地域をまわってわがまち支えあい協議会を広めたいとの意見があった。	圏域内3カ所で避難所運営ゲーム(HUG)体験と茶話会を実施。子どもや多世代が参加しやすいよう日曜日に開催。
平成30	片文ささえ愛キャラバン	わがまち支えあい協議会を知ってもらい、子どもを中心とした多世代交流をしたいとの声があった。	R29年に引き続き3カ所でカーレットと懇談会～子どもの見守りから地域のつながりを考える～を開催。※H30以降は開催なし
令和1	ささえ愛ぽかぽかサロン	片文ささえ愛キャラバンを経て、多世代交流できる居場所を作りたい、顔の見える関係づくりをしたい方向性となる。	奇数月に1回の開催。定例会に参加している保育園の場所を借りて開始。感染症拡大によって一時休止、地域の公会堂に場所を移して再開。
	住民アンケート	地域のニーズを知ること、担い手を増やすこと、周知を目的に実施した。	配布部数：4,750部 回収：151部
	だんらんサロン	地域の居場所を増やしたい。孤食を解消したいという目的から、食を通じた居場所づくりを企画した。	※感染症拡大防止のため開催中止。実施には至らなかった。
令和2	ちょこっとお手伝い協力者説明会	生活支援をスタートする前に、協力者を集めるため開催。	実践事例について中央ささえあいの会・新町ささえあいの会から協力を得て開催。
	ちょこっとお手伝い(おためし)	住民アンケートの結果を受けて生活支援を開始。	まずは無料で開始。電球交換や粗大ごみ出しなど住民同士でできる30分程のお手伝いを通じて、地域のつながりづくり。
	PR活動	活動を知ってもらいたい。新たな人とつながりたい。	毎月1回。戸別訪問して声をかけながらチラシを配付。
	フードドライブ	コロナ禍でもできることはないかと考え、タウンミーティングを参考に開始。	全体会議などで受付開始。保育園等が回収BOXを設置したり、イベント時に協力してくれている。
令和3	準備委員会を終え団体として発足		
	フードパントリー	フードドライブで集まったものを地域で必要とされている方に配り、地域のつながりづくり。	※不定期開催。
	MINANO フードドライブ	MINANOからフードバンク府中へ依頼があり、フードバンク府中から地域のわがまちでも協力してもらいたいとの声かけから開始。	年数回、MINANOのイベント時に開催。同時にかたまち支えあいの会のPRも行っている。
令和4	ちょこっとお手伝い本格稼働	お試し期間から協議を重ね、10月に本格稼働とした。	有料にしたほうが頼みやすいということから1回30分300円、60分500円(最大60分まで)にて行っている。

コーディネーターコメント

「地域住民や団体と顔の見える関係づくり」を目標に、まずは会のことを知ってもらうことから始め話し合いと活動を継続している。協力していただく団体も活動者も少しずつではあるが確実に増えてきている。今後はサロン活動やちょこっとお手伝い活動の充実をはかり、活動者も参加者も楽しみながら、「かたまち支えあいの会」をさらに広めていきたい。

武蔵台文化センター圏域（武蔵台・北山町・西原町）

武蔵台・北山・西原ささえあいの会

スローガン

いざという時のために、顔見知りの輪を広げよう

活動目標

それぞれの活動を充実させ、広報をすすめ、関わる人を増やしていく。

地域特性

都営住宅が多く高齢者世帯等が多い一方で、戸建ての新築が増え子育て世代が増加している。東西に武蔵野台地が広がり、地域の中で高低差が大きい。公共交通機関は少ないが、多摩総合医療センターをはじめとした医療機関が充実している。公園や並木道が多く緑が豊かな地域。



メンバーの皆さん

わがまちの声



70代女性

協議会を立ち上げる時に民生委員として声がかかった。地域の中につながりを作りたいと思い、参加するようになった。これから若い方にもわがまちに参加してもらい、より活発なわがまちにしていきたい。



60代女性

地域に高齢者が増え、10年後の自分はどうなっているだろうと考えたとき、みんなが自分のもとに来てくれるような関係を築きたいと思った。地域の皆さんが元気で自分も元気でいられればと思っている。



50代男性

地域の中でいつでも気軽に相談できる場所を作りたいという想いを以前から持っており、地区社協の考え方に賛同して参加するようになった。これからも地域の役に立てることができればと思っている。



70代女性

ちょこっとお手伝いを依頼したとき、地域の方に誘われてわがまちに参加するようになった。サロン活動に参加することが、頭の体操になったり、誰かとお話しできる時間にもなっているため、自分のためにもなっているなと感じている。できる範囲で続けられたい。

活動の様子



みんなのひろば 北山



みんなのひろば 武蔵台



ちょこっとお手伝い



フードドライブ



フードパントリー



文化センターまつり



福祉まつり

年度	活動名	始まったきっかけ(課題)	活動内容(やっていること、凡その頻度)
平成27	懇談会開始		
平成28	準備委員会開始		
平成29	みんなのひろば北山	エリア内で高齢化率が高く、地域活動への参加者が少ないことから開始。	2か月に1回の頻度で開催。地域の方が集まれる居場所として工作や音楽、体操などを実施。お喋りを楽しむ中で顔の見える関係を作っている。
平成30	みんなのひろば武蔵台	民生委員より「集まる場を作ってほしい」との相談がきっかけ。	2か月に1回の頻度で開催。地域の方が集まれる居場所として工作や音楽、体操などを実施。お喋りを楽しむ中で顔の見える関係を作っている。
令和1	ちょこっとお手伝い	「顔見知りの輪を広げる」ためのツールとして、試行的に開始。	依頼があれば随時実施。1回30分を目安に衣類の修繕や草とり、話し相手等のお手伝いを行う。お手伝いを通して住民同士の顔見知りの輪を広げている。
	地域アンケート	地域のニーズ把握とちょこっとお手伝いのお試し期間延長のお知らせを兼ねたアンケートを実施。	武蔵台圏域を対象にアンケートを取り、実施内容や利用料に関する意見の徴収。利用者・協力者の募集も行った。
令和2	フードパントリー	メンバーが個人的にフードパントリー実施。単独でやるには困難と判断し、わがまちでやってほしいと依頼あり。メンバーが必要を感じ、わがまちで取り組むようになる。	学校の長期休みに合わせて年に4回開催。ひとり親家庭や多子家庭などに対し、食料品をお渡し。住民同士のコミュニケーションを大切にしながら実施している。
	お便り配布	コロナ禍でみんなの広場の開催ができなくなったため、参加者とのつながりを維持を図るためにお便り配布を開始。	みんなの広場の参加者、メンバーの気になる方へ定期的に会で作成したお便りを配布。 ※みんなの広場の再開に伴い終了。
令和3	準備委員会を終え団体として発足		
	フードドライブ	フードパントリーを始めるにあたり、最初はフードバンク府中から食材をもらう形で実施していたが、提供が難しくなり地域で集める形へ。	年3回、4会場で開催。また文化センターでの困りごと相談会で随時開催。自宅に余っている食料品等を寄付いただいている。
令和4	文化センターまつり	社協に文化センターまつり開催の案内が届き、他のわがまちもPRやフードドライブ等を通じて参加されていることをお伝え。わがまちの活動をPRするため出店。	わがまちのチラシ配布や活動をまとめたパネルを展示し、会のPRを実施。出店を通じて多世代間の交流をしている。
	PR活動	メンバーで今後のPRをどのように続けていくかを話し合い、ポスティングを実施。	エリア全戸にポスティングや、フードパントリーは学校を通じて家庭にチラシを配布。そのほか、ホームページの運用や地域のお祭りへの出店を通じたチラシ配布など、多様なPR活動を展開している。
	福祉まつり	会のPRを目的としてわがまちで出店。	文化センターまつり同様、チラシの配布やパネルの展示を通じて会のPRを実施。
令和6	武蔵台小うまだし	PTA会長より、保護者の人手不足により、子どもの登校時の見守りやうまだしのお手伝いをしたいだけないかと相談があり、わがまちで検討。	年に2回、春・秋の交通安全週間時に実施。武蔵台小学校近くのスクールゾーンにうまの設置と回収を行う。(R7武蔵台小から地域の自治会に依頼したため活動終了)
	美化清掃(試行)	地域住民より「新府中街道沿いで個人的に行っていたゴミ拾い活動を手伝ってくれるボランティアを探している」との相談を受け、住民の困りごとと、わがまちのPR活動を掛け合わせた活動として試行的に実施。	月に1回定例会の日で開催。わがまちのビブスを着用しながら、自宅から文化センターまでの清掃活動を行なっている。

コーディネーターコメント

「いざという時のために、顔見知りの輪を広げよう」というスローガンを掲げ、自分たちが生活する地域をより住みやすい地域にするため、地域課題や住民の声をもとに活動されている。活動者も参加者と同じように楽しく活動ができるよう、自分たちにできることを話し合いながら活動を続けられている。わがまちは着実に地域に浸透してきており、顔見知りの輪がますます広がって行けるよう、伴走していきたい。

西府文化センター圏域（東芝町・西府町・日新町1～4丁目・本宿町・美好町3丁目の一部）

にしふエリアささえ愛の会

スローガン

「地域のつながりをつくろう！」

「いつでも声を掛けあえる・支えあえる地域に！」

活動目標

幅広い地域のつながりをつくり、地域の声に耳を傾ける。

活動を通して顔見知りの関係になり、普段から声を掛け合える地域をつくる。

会の周知を通して活動目的や自分たちができることを広め、会につながる人を増やす。

地域で困りごとを抱える方を把握し、活動を通してつながる。

地域特性

閑静な住宅が多く、比較的子どもの数も多い地域。地域内には大きな企業もあるため現役世代の出入りも多い。一方で、高齢化による空き家や庭木問題、自治会や地域活動の担い手減少問題のほか、交通の便が悪く、買い物などに苦労する方が多いといった地域課題も生じている。



メンバーの皆さん

わがまちの声



60代男性

仕事の雇用延長期間が終了した際、従来とは全く異なる分野に関わろうと決めたことがきっかけです。微力とはいえ人の役に立っていること、新しい知人が増えることがやりがいとなっています。今後も、少しでも多くの方達の健康寿命を伸ばすことを目的の一つとして活動していきます。



70代男性

見ず知らずの地に上京してきて、沢山の方々に助けていただきました。その恩返しとして、自分のことを通して地域に貢献したいと思い、ボランティアを始めました。特に男性の力は大きな活力になります。メンバーも高齢化してきているため、特に現役世代を中心とした新たな担い手が増えると嬉しいです。



70代女性

当時、認知症を患っていた母と「にしふらっと！」に参加したことが、わがまちを知るきっかけとなりました。その後少しずつ活動に参加し、メンバーと一緒に様々なボランティア活動に取り組んでいます。「出来る時に出来ることを」をモットーに、これからも無理せず地域の方との交流を楽しんでいきたいと思っています。

活動の様子



わがまちサロンにしふらっと！



ちょこっとお手伝い



地域の清掃活動



フードドライブ



フードパントリー



五小登校時見守り活動

年度	活動名	始まったきっかけ（課題）	活動内容（やっていること、凡その頻度）
平成27	懇談会		
平成28	準備委員会		
平成29	わがまちサロンにしふらっと！	「近所の方が何をしているのかも分からないほど、地域のつながりが薄くなっている」という声が挙がり、地域で気軽に集まれるサロンの開催を検討。	地域のパン屋さんの一角をお借りし、パンやコーヒーを飲みながら楽器演奏を聴いたりカラオケを歌ったりして、楽しい時間を過ごしている。
令和1	地域アンケート	地域のニーズを把握し、活動の立上げに活かすため、アンケート調査を実施。	配布部数：4,500部 回収：18部
	ちょこっとお手伝い	同じ地域に住む住民同士で、顔見知りの関係を作ることを目的に開始。	30分程度でできる、ちょっとした困りごとを地域の住民同士で支えあうお手伝い。令和5年度より有償化となっている。
	ちょこっとお手伝い説明会	ちょこっとお手伝いの活動を始めるにあたり、お手伝いしてくれる方を獲得するための説明の機会を設置。	ちょこっとお手伝いの活動内容について説明。活動者となってくださる方を会のメンバーにおつなぎした。
令和2	本宿小学童クラブからの帰宅同行	下校時の子どもの安心安全を守るため、市が行っている放課後子ども見守りボランティアに付随して開始。	毎週平日の午後5時から30分程度、本宿学童クラブから帰宅する児童たちが安全に帰れるように同行し、見守る。R6には新町と合同で見守りをより安全にするために交通安全教室を実施。
令和3	準備委員会を終え団体として発足		
	ボランティア説明会	新たな担い手を確保するため、わがまちについて知っていただく機会を設置。	わがまちについて説明。興味を持ってくれた方を担い手へとつなげた。
	フードドライブ	食を通じて地域とつながることを目的に開始。	期限は切れていないが自宅で余っている食品の寄付を募り、フードパントリーを実施するための食品を確保する。
	お便り配布	にしふらっと！がコロナ禍で開催が難しくなったため、参加者とのつながりと安否確認のため実施。	サロン参加者へお便りを配布。
	フードパントリー	食を通じて困りごとを顕在化し、地域とつながることを目的に開始。	3か月に1回、地域で食にお困りの世帯へ食料を無料で配布。
令和4	食のアンケート	食の活動のニーズ調査と活動の協力者を募るためアンケートを実施。	配布：1,500部 回収：217部 フードドライブやフードパントリーの活動へ協力できるか、利用したいか等をアンケートにて質問し、活動の立上げに活用している。
	地域の清掃活動	地域に貢献できる活動を増やせないか検討し、新たに清掃活動を開始。	毎月の定例会後、西府文化センター周辺のごみ拾いを実施。PRも兼ねて会のビブスを着用しながら行っている。
	福祉まつり	市内各所から住民が集う機会を活用して会の活動を周知し、活動の目的や自分たちができることを広められないか検討。	バザーの出展とともに、PRとして会の活動をまとめたパンフレットをお渡し。R6現在まで、毎年出展している。
令和5	五小登校時見守り活動	登校時の子どもの安心安全を守るため、学校と連携して活動を発足。	毎週平日の午前7時40分から8時15分頃まで、児童が安全に登校できるよう見守る。
	学校フードドライブ（五小、十中）	学校と連携した地域活動ができないか検討し、ドライブの実施を開始。	事前にチラシを配布していただき、学校の授業参観などのタイミングでドライブを実施。
	活動報告書送付	活動には参加しているが定例会には参加できない会員などに会の経過を把握していただき、つなぎ続けられる仕組みを検討。	3か月に1回、会の活動の様子をまとめた報告書を作成。定例会に参加できない会員や、過去行ったアンケート回答者やドライブ寄付者などを対象に報告書を発送。
	西府文化センターまつり	地域住民が多く集うお祭りの機会を活用して会の活動を周知し、活動の目的や自分たちができることを広められないか検討。	折り紙を同封した会のパンフレットをお渡しして活動をPR。

コーディネーターコメント

「地域のつながりをつくろう！」「いつでも声を掛けあえる・支えあえる地域に！」をモットーに、メンバー一丸となって地域活動に取り組んできた。他の地域と比べ少人数ではあるが、一人ひとりが誰かのため、地域のために想い、日々できることを見つけて活動している。ここ数年では小中学校などとも連携をするなど、多世代に渡って交流を深めてきた。誰もが暮らしやすいまちを目指し、引き続き地域に根ざした活動を続けていきたい。

住吉文化センター圏域（住吉町・分梅町2～5丁目・南町）

住吉・分梅・南町ささえあい協議会

スローガン

1人ぼっちを作らない、笑顔があふれる地域をつくる

活動目標

サロンや放課後の子どもの居場所づくりを通じて孤立を減らし、笑顔で共に過ごせる時間につなげていく。「助けてほしい」という声を受け止め、ちょっとしたお手伝いを通して、今できることに取り組む。

地域特性

近くに多摩川が流れているため、水害が起きると広範囲に影響が及ぶ地域。団地やマンションが多く、高齢化率も高いが、高齢から障害までさまざまな福祉施設が多く充実している。



メンバーの皆さん

わがまちの声



80代男性

平成22年に福祉協力員制度で協力員になったことが始まりです。平成28年のわがまち準備委員会から参加をしていて、サロンで皆さんが喜んでくれることがやりがいとなっています。



60代女性

わがまちタウンミーティングに参加後、職員の方からわがまちに誘われたことがきっかけでした。当時は母親の介護が終わり、心に空洞ができた状態。誘われた活動はおかえり広場で、参加前は子どもが苦手でしたが、参加してみると子どもたちがとても可愛く、今は癒しになっています。



40代女性

自分の子どもが参加していた地域の少年野球で、ボランティアとして参加していたコーチなどを見て、こういった人たちに支えられているんだと実感。まちに何かお返しをしたいと思ったことがきっかけでした。普段は仕事をしているため活動に参加できませんが、デザインの仕事を活かしてチラシの作成をお手伝いしています。会には若い人が少ないですが、自分たちの協力できるところから気軽に参加していただけたら嬉しいなと思います。

活動の様子



だれでもふらっとサロン



おかえり広場



手作りお仲間広場



フードパントリー



ちょこっとお手伝い



住吉文化センターまつり

年度	活動名	始まったきっかけ(課題)	活動内容(やっていること、凡その頻度)
平成27	懇談会開始		
平成28	準備委員会開始		
	住吉文化センターまつり	わがまちを多くの人に知ってもらうことを目的として初出店。	この年は、来場者へアンケート、わがまちのPR、飲料物の提供を行う。2日間の開催で、アンケートは約300枚の協力をいただいた。アンケート結果は、後の活動につながっていく。
平成29	だれでもふらっとサロン	地域住民へのアンケート結果をもとに、高齢者支援班を結成。地域の様々な声を集めるために、人と交流できる場を作ってみるのはどうか?という意見から、気軽に集まれるサロンを検討したことが始まり。	毎月1回開催。 ふらっと寄って気軽にお喋りできる居場所を目的として、簡単な体操や季節の貼り絵、不定期で演奏会などを実施。
平成30	おかえり広場住吉	地域住民へのアンケート結果をもとに、子ども支援班を結成。学童終了後の見守り(預かり)のニーズが多くあったため、まずは住吉小学校に通っている児童を対象に実施することとなる。	住吉小学校の児童を対象に実施。宿題の見守りや昔遊び、工作などを行う。
令和1	準備委員会を終え団体として発足		
	ちょこっとお手伝い	住民同士で顔見知りの関係を作るきっかけとして活動始める。	1回30分程度で、草とりや電球交換、粗大ごみの運びだし等を行う活動。無償で実施している。
	福祉センターまつり	会をPRするために初出店。	南町にある心身障害者福祉センター主催のおまつりに出店。
令和2	おかえり広場保護者説明会	おかえり広場に登録希望の子どもと保護者に向けて活動の主旨やルールを伝えるため	登録希望の子どもと保護者を集めて説明会を実施。
	住民アンケート	会が発足したばかりのため、担い手を集めるためのPRや、ちょこっとお手伝いのニーズを探ることを目的に実施。	配布部数：5,500部 回収：180部
	立上げ報告会	住吉・分梅・南町ささえあい協議会の設立と活動の主旨や内容を地域に伝えるために報告会を実施。	圏域内の自治会、学校、民生委員等に声をかけ、立ち上げ報告会を実施。
令和3	おかえり広場南町	南町にもおかえり広場を必要としている子どもがいるはずという声から、南町にも拡大。	南町小学校の児童を対象に実施。宿題の見守りや昔遊び、工作などを行う。
	学校アンケート	地域の中で子供のニーズは何かを改めて調査したいとのことで、小学校へアンケートを実施。	配布部数(南町小：370部/住吉小：430部) 回収(南町小：252部/住吉小：336部)
	ボランティア説明会	新たな担い手へ会の取り組みを伝えるための説明会を実施。	PRチラシを配布して「手伝える」と手が挙がった方々に説明会を実施。
	おかえり広場	おかえり広場住吉・おかえり広場南町を統合。	住吉小学校・南町小学校に通っている児童を対象に、宿題の見守りや遊び、工作などを行う。地域住民との多世代交流の場ともなっている。
	フードパントリー	コロナが流行し、さまざまな理由から食に困る世帯が増加。住吉エリアでもニーズがあると考え実施することとなる。	食に困っている世帯へ、フードドライブで集まった食料をもとに定期的に配布している。
	フードドライブ	フードパントリーが始まることをきっかけに実施。フードロス問題も同時にできていたため、それを解決する手段として実施することとなる。	各家庭で食べきれなくなった食品の寄付を受け付ける活動。地域の商店や福祉施設にもご協力いただき、回収ボックスを設置している。
	PR活動	おかえり広場の担い手募集のため実施。	担い手募集のチラシを作成して配布。
令和4	自治会との懇談会	活動場所の確保、活動内容を各自治会に伝えるために懇談会を実施。	活動で会場をお借りしている自治会へ日頃の活動の報告とお礼のために挨拶回りを実施。
	地域文化祭	住吉文化センターより出店のお声がけがあり、わがまちのPRのため参加。	会のPRのためのチラシ配布とフードドライブの実施。
令和5	手作りお仲間広場	男性も気軽に参加できる居場所があるといいよねという思いから、ものづくりをテーマに検討したことがきっかけ。	毎月1回開催。 毛糸を使った編み物や工作など、手先を動かしながら参加者同士のコミュニケーションの場としている。

コーディネーターコメント

住吉エリアでは、令和元年に「住吉・分梅・南町ささえあい協議会」として立ち上がり、6年の歳月が経った。子どもから高齢まで、さまざまな世代を対象とした活動が充実しており、メンバーそれぞれが、会のスローガンである「1人ぼっちを作らない、笑顔があふれる地域をつくる」という思いをもとに活動されている。素晴らしい活動がたくさんある中、担い手の不足が課題である。また、住吉エリアは高齢化率が高く、縦に大きな鎌倉街道がはしっていることから、道路を超えた移動の難しさや活動の周知が行き渡らないといった課題もある。これからも担い手を集めつつ、発展していけるよう、コーディネーターとして支えていきたい。

四谷文化センター圏域（四谷・日新町5丁目）

ささえあい四谷 ～四谷・日新町5丁目～

スローガン

高齢者から子どもまで、地域で孤立した人を作らない
地域でいろいろな活動をしている個人・団体とつながるようにする

活動目標

活動を通して地域のニーズをしり、地域住民とのコミュニケーションを図る。

サロンなどの居場所を通して地域住民の孤立を防ぐ。

地域の子供たちの安全を守り、見守る。

地域特性

高齢者世帯は多いものの、若い世代も増えてきている。昔からの農家が多く、地域によっては畑が広がっている地域もある。国立市との市境で、移動手段はバスが多い。

伝統的な行事が引き継がれており、シニアクラブも活発に活動している地域。



メンバーの皆さん

わがまちの声



70代女性

参加のきっかけは、わがまちの代表より声をかけて頂いたことからです。活動する中で地域の方々と一緒に楽しみ「ありがとう」と笑顔で帰られる時、こちらも笑顔になります。これからも社協、代表、ボランティアの皆さんと共に、わがまちの活動をもっと知ってもらえる様、努めていきたいです。



80代男性

若い頃に始めた三味線をきっかけに、50代から和楽器バンドで老人施設、障害者施設等でのボランティア演奏、都立公園での活動を続けてきました。そうした地域での活動を続ける中でわがまち(菜々のつどい)の活動を知り、奥さんと一緒にかわり始めました。たくさんの方と知り合い、活動を通じて、ささえあい四谷の一員として、地域の仲間と共にいい方向に少しでも頑張りたいと思いました。



80代男性

自治会活動にかかわる中で、地域の方々とは知り合い、身近な皆さんのために何かできないかと考え始めたころに、地区社協結成の動きを知り、活動に参加することになりました。最初は、手探りの活動、1歩、1歩の動きを10歩、50歩、100歩へと皆さんとともに、歩いてきました。今では、多くの仲間と日々着実に活動の幅を広げ、手ごたえを感じる活動になりつつあります。

活動の様子



ゆうやけ四谷・日新



お楽しみ広場



フードドライブ



フリーマーケット



菜々のつどい

年度	活動名	始まったきっかけ(課題)	活動内容(やっていること、凡その頻度)
平成27	懇談会開始		
平成28	準備委員会開始		
平成29	菜々のつどい	地域で顔の見える関係性を作るため、誰もが気軽に通えるサロンを立上げ。	おしゃべりや、近隣の福祉施設の協力を得て体操やミニゲームを行ったり、地元の野菜を販売したりと、参加者との交流を図っている。
	ゆうやけ四谷	学童クラブ後の時間を地域のボランティアがサポートし、子どもの安全と親の安心を高められる地域を目指したいとの声からスタート。	自治会館で夕方の見守りを実施。
平成30	準備委員会を終え団体として発足		
	チャリティーバザー(フリーマーケット)	ささえあいの活動を浸透させたいとの声から実施。	年1回、会のPRと地域とのつながりづくりを目的に実施。※現在はフリーマーケットの名称で開催。
	ゆうやけ四谷帰宅同行	学童の先生に地域のニーズを聞き、帰宅同行を実施。	月～金、学童から帰宅する子どもの見守りを実施。
令和1	ゆうやけ日新	日新町でも学童クラブ後の児童の見守りを実施。	※ゆうやけ四谷自治会館での見守りは終了して帰宅同行に切り替える。
	夏休みマヨネーズ教室	子ども達と一緒に楽しめるものはないかと世代間交流としてスタート。	年1回、夏休みに実施。
	シニアクラブ役員会PR	会のPRと団体同士の交流を図るため、シニアクラブの役員会に活動説明を行う。	現在は、不定期で会のチラシをPR。
	住民アンケート	担い手不足解消のため、地域住民へアンケート実施。	配布部数：5,300世帯 回収：56部
令和2	ささえあい四谷だより	コロナ禍で活動中止が余儀なくされたため、住民との繋がりが切れないよう始まった。	「四谷だより」を配布。現在は会のPR活動の一環として継続。
	フードドライブ	コロナ禍で会全体の活動が縮小。この時だからこそできること、困っている人に手を差し伸べたいとの思いから始まる。	地域の福祉施設に回収BOXを設置したり、困りごと相談会等で回収を行う。
	学校アンケート	地域の中で子育て世帯のニーズは何かを改めて調査したいとのことで、小学校へアンケートを実施。	配布部数：930部 回収：678部
令和3	ちょこっとお手伝い	地域で顔見知りの関係を作ることを目的に開始。	ちょっとした困りごとを住民同士が30分程度で行うお手伝い。立上げ当初から無償で実施。
	フードパントリー	ドライブで集まった食品を、生活に困っている方へお届けしたいとの思いで実施。	2か月に1回、生活に困っている世帯へお渡し。
	子どもボランティア体験	アンケートの結果、「子どもにボランティアを経験させたい」と回答が多く、子どもの活動が立ち上がる。	月1回、地域の花壇にボランティアと子ども達で花壇の整備やお花を植える活動を行う。
	お便り配布	コロナ禍で活動中止が余儀なくされた中、地域住民とのつながりを切らさないようお便りを配布。	現在は月1回、PRの一環として継続中。
令和4	文化センターまつり	わがまちのPR目的として参加。	出し物やPRチラシを配布し会のPRを行う。
	花壇づくり	地域住民の「子どもたちと活動したい」という声と、学校の「花壇を何とかしたい」という要望が結びつき、学校と地域が連携して子どもたちが花壇を整備する活動が開始。	学校の花壇整備や、授業の一環で子供たちと一緒に花植えを行う。
	散歩会	コロナ禍で活動が制限される中でも地域との繋がりを保つため、シニアクラブとの交流として散歩やヒガンバナ鑑賞を実施。	※現在は制限されている活動がないため、休止。
令和5	お楽しみ広場	新たな活動を作りたいと、健康麻雀を立上げ。	地域の孤立防止と交流を図るために月3回実施中。参加者とのコミュニケーションを通じて、世代を超えた繋がりを目指している。
令和6	ささえあいファーム	わがまちで野菜を育て、サロン活動やフードパントリーで活用するため、地域の特性を生かし、農家の畑の一部を借りて農作業をスタート。	不定期で畑作業実施。育てた野菜は菜々のつどいやフードパントリーで活用。
	お楽しみ広場(カラオケ広場)	お試してカラオケを実施したところ、地域からの「もっとやってほしい」との声を反映させ、お楽しみ広場の延長で実施することに。	歌を歌いながら参加者との交流を図っている。
	学校とのフードドライブ	学校と連携した活動ができないか検討。	年1回、近隣の小中学校でドライブを実施。

コーディネーターコメント

ここ数年で新たな活動が立ち上がるなど、活動が充実している。ささえあい四谷は人や地域とのつながりを大切にしており、一人ひとりがいろいろな思いを持ちながら、日々活動に取り組んでいる。世代や立場を超えて支え合う中で、新たな出会いや学びが生まれており、最近では少しずつではあるものの、わがまちが地域に浸透し、理解や協力の輪が広がりつつあるのを実感している。今後も一歩ずつ、着実に活動の幅を広げながらわがまちと共に地域との関わりを深めて行きたい。

わがまちタウンミーティング

年度	テーマ 1回目	テーマ 2回目
平成27	わがまち支えあい協議会の可能性と地域福祉コーディネーター	
平成28	地域で高齢者の在宅生活を支える体制づくり	みんなで創ろう！わがまち府中 誰もが誰かの役に立てる
平成29	みんなで語って ひろげよう 支えあい	“お互いさま”を実現しよう！～我が事・丸ごと府中のこと～
平成30	みんなで考えよう！府中花子さんが安心してこのまちで暮らせるように	支えあい活動見本市きっとあなたにピッタリの地域活動が見つかります
令和元	おたがいさま！で活き活き♫ 自分の元気を地域の元気に	認知症でも安心！わがまち府中2020 “考えよう編” ～今からできる安心づくり～ ※感染防止のため中止
令和2	わがまちでつながろう！ ※感染症拡大防止対策のため2日間開催	今つながり続けるために地域でできること～支えあい活動のヒント ※感染防止のため中止
令和3	ほんの一步からはじまった 地域とのつながり～わたしの場合～ ※オンライン開催	地域活動のヒント～仲間づくり編～ ※オンラインのハイブリッド開催
令和4	わがまち懇談会 ※①午前、②午後2部制開催	地域デビュー入門セミナー ～お互いさまのまちづくりを広げよう～ ※2部制開催
令和5	地域のつながりづくり勉強会～自分にできること、きっと見つかる～	ケアラーについて学ぼう！～地域にできることってなんだろう～
令和6	～いつまでも、いきいきと地域で暮らすために～	“みらい”に活力を！～見つけようやりがい、いきがい～

概要説明

住民同士の支えあいを推進するため、市内全域での情報共有や学習の機会、活動者同士のつながりの機会など各回ごとにテーマを決めて、開催している。

平成27年度に行われた第1回は第3次地域福祉活動計画の内容発表が大きな目的だった。その後は、わがまち支えあい協議会の中心的な役割を担う人材を育成するとともに、市民の関心と地域活動の気運を高めるために年2回開催してきた。主な内容としては、わがまち支えあい協議会の活動紹介や他自治体の活動事例、住民による支えあい活動に関する講演会や勉強会を行った。

コロナ禍は中止せざるを得ない時期もあったが、オンライン・ハイブリッドで開催したり、一度に集まる人数を制限し2部に分けて開催するなど、工夫しながら支えあい活動の推進に努めてきた。

今後さらに、支えあい活動を推進するために、わがまち活動者同士の交流や地域課題に対する意識を高める機会をつくと共に、様々な企業や団体とのつながり作りも視野に入れて、時代に即したテーマを検討し開催していく。



事例を通して、近所の見守り、声掛けは大切だと感じた。



平成30年度
第1回 参加者

コロナ禍だからこそ、つながりを大切にしたいと思った。



令和2年度
第2回 参加者

ヤングケアラーについて学べたことは、これからの関わりの後押しになった。



令和4年度
第2回 参加者

実際に活動されている方から話を聞き、人柄に触れることができて良かった。活動に参加してみたいと思う。



令和5年度
第2回 参加者

地域なんでも相談員

概要説明

「地域なんでも相談員」は、平成28年度から活動しており、地域のちょっとした気になること・心配事などをコーディネーターやわがまちへとつなぎ、解決に向けて一緒に考えていく役割を担っている。現登録者数（R6.3月現在191名）

地域なんでも相談員に関わる活動

●地域なんでも相談員養成研修 年1回

年に1回開催。相談員に登録するための研修。

内容) ①地域なんでも相談員の役割

②一人の困りごとから地域での支えあいを検討する

③地域の「わがまち支えあい協議会」への参加

④地域なんでも相談員登録説明

●連絡会 年1回

各わがまちが取り組んでいる活動の共有やテーマ学習、相談員同士の日頃の活動の共有や交流等を図ること、相談員としての活動の幅を広げるために行う。

●困りごと相談会への参加

相談対応の研鑽と実践の場として、市内の文化センターで行われる相談会で相談対応をする。

●見守り・声掛け

コーディネーターが関わる地域で孤立しがちな方を対象に、相談員が定期的に見守り・声掛けの活動を行う。

●ふわりまち歩きシート

日常生活の中で気づいた地域の困りごとや、地域資源を記録し、コーディネーターに報告する。

●エリア懇談会

文化センター圏域に分かれて実施。相談員の横のつながりを作り、地域性を踏まえた現状を共有して相談員活動を活性化につなげる。

●地域なんでも相談員活動ハンドブック

相談員の概要や活動方法が1冊でわかるハンドブック。全相談員が所持しており、活用中。



所感

地域なんでも相談員の養成は、府中社協独自の取り組みで、身近な地域で暮らす地域住民が小さな変化に気づくことで、潜在化した困りごとをより早く、より多く見つけることができる。今後も地域なんでも相談員の養成を続け増員し、見守りの目を広げ、孤立孤独の防止に努めていく。



広報誌の発行「Connectふちゅう」

概要説明

新たな人材や企業とつながるため、地域活動の情報を発信。
より多くの人に地域活動を知ってもらい、目に触れる機会を増やし、企業・団体・個人など、幅広い層へ伝える。この思いから、令和4年度に地域活動情報紙『Connectふちゅう』を創刊した。当初は年2回発行だったが、令和6年度からは年3回発行に増回した。毎回テーマを変え、地域活動に関する内容を紹介し、新聞折込み、チラシシュ（新聞を購読していない世帯のポストへもチラシを配布するサービス）、関係機関への設置、地縁団体、地域の集まりの場で配布する。社協ホームページにも掲載し、多くの人の目に触れる機会をつくってきた。
今後も様々な方に、地域活動に「自分も関わられるかもしれない」と“我が事”として捉えてもらい、支えあいの活動の広がりや活性化を目指し、初めて目にする方にも、興味を持ってもらえる紙面づくりをしていく。

バックナンバー（vol.1～vol.7の表紙）

【Vol.01】
いざ！地域へ！
令和4年 4月発行



【Vol.02】
私たちは「地域なんでも相談員」です
令和4年 8月発行



【Vol.03】
企業・施設・団体の地域活動特集
令和5年 3月発行



【Vol.04】
世代を超えて活動中！
令和5年 8月発行



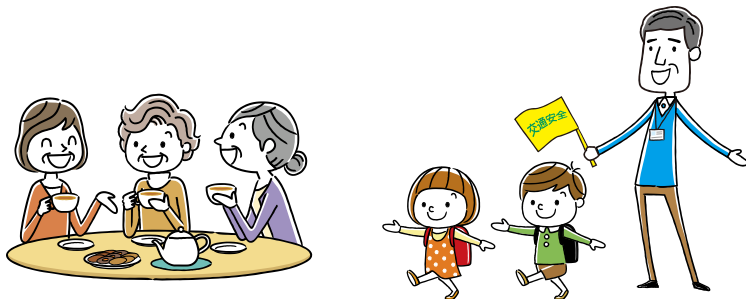
【Vol.05】
地域で守る子どもの未来。
令和6年 3月発行



【Vol.06】
「もったいない」を「ありがとう」に！
令和6年 8月発行



【Vol.07】 楽しく集い、支え合う
みんなの居場所「サロン」！
令和6年 12月発行



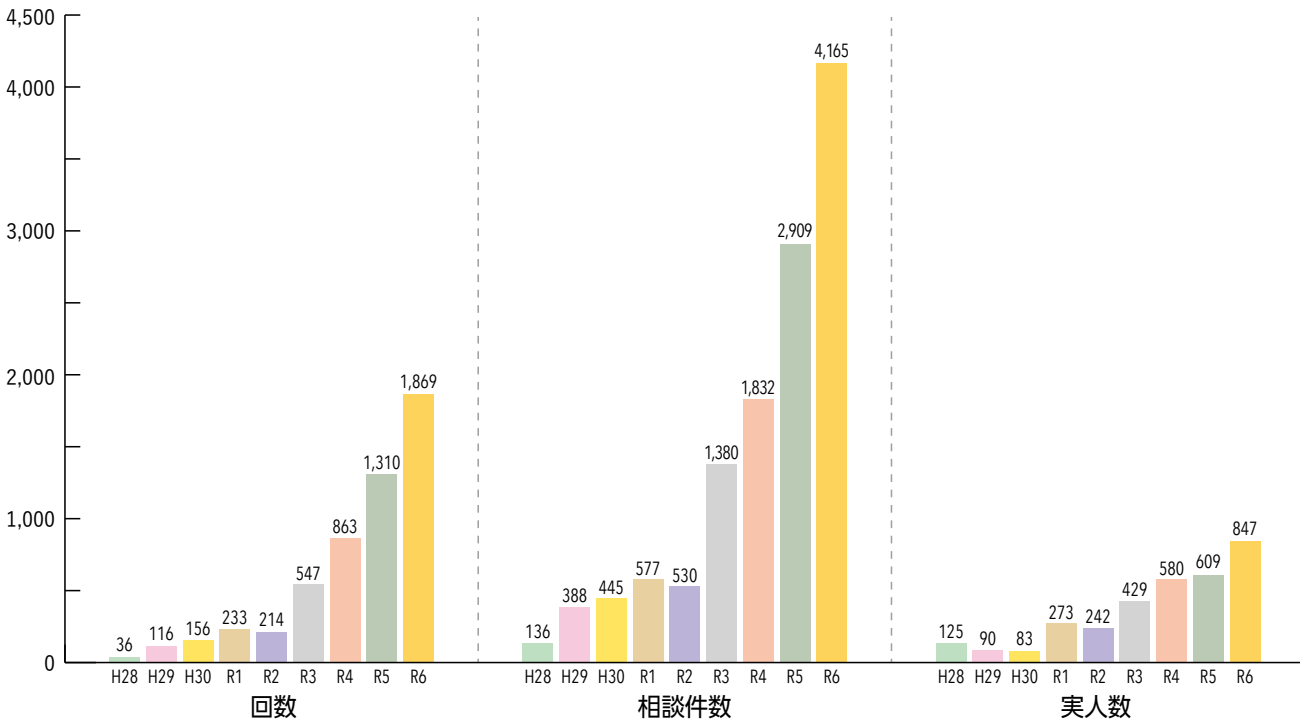
R6年度 困りごとと相談会開催状況

※半日を1回として集計

圏域	開催回数	延べ相談件数	相談実人員
中央（R3.4～）	32回	51件	30人
白糸台（R3.4～）	50回	92件	39人
西府（R3.4～）	51回	71件	16人
●武蔵台（H28.11～）	266回	437件	87人
●新町（R1.9～）	274回	908件	171人
●住吉（H29.11～）	274回	664件	120人
●是政（R3.4～）	284回	653件	87人
●紅葉丘（H30.11～）	266回	670件	146人
●押立（H28.11～）	157回	277件	62人
●四谷（R3.4～）	164回	209件	39人
片町（R1.9～）	51回	133件	50人
合計	1,869回	4,165件	847人

●※週3日、終日（9:30～16:00）実施へ増設
R4.2～新町。R4.11～住吉、R4.2～武蔵台
R5.2～是政、R5.3～紅葉丘、R6.10～押立・四谷

困りごとと相談会開催状況の推移
平成28年度～令和6年度

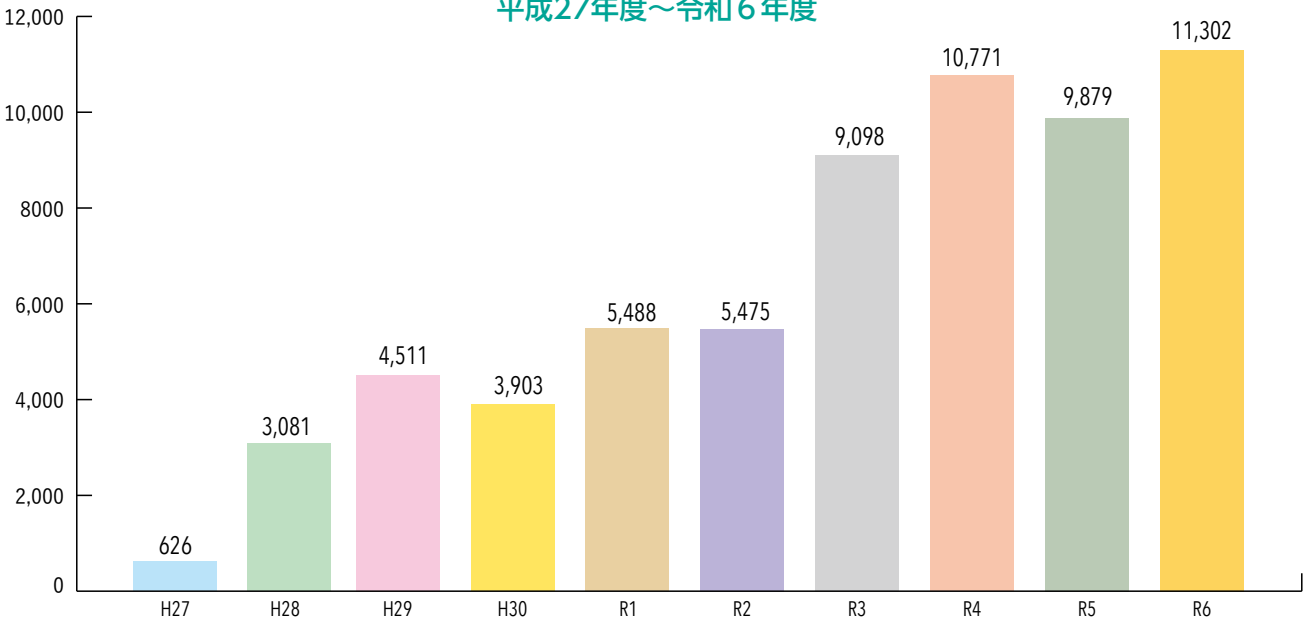


相談会回数の増回とともに相談件数が増えている。相談会のPRチラシは全戸配布、自治会回覧、市内掲示板、関係機関への配架などを実施し、市民の目に触れるよう工夫している。主な相談者は、困りごとを抱えている本人やその家族、民生委員、地域住民、なんでも相談員、行政関係者、福祉施設など多岐にわたる。また、相談会を拠点に住民の活動者が来所しての連絡調整や近隣への訪問、関係者との同行訪問など、訪問型の支援（アウトリーチ）を行っている。
また、複合化、複雑化する課題は関係機関と連携し、地域住民による見守りを検討したり、本人に寄り添い続ける等丁寧な対応を行っている。
今後も地域住民や関係機関と連携しながら個別支援・地域支援を積極的に進めていく。

R6年度 地域福祉コーディネーター活動実績【個別支援】(件)

圏域	相談経路				相談内容		
	訪問	電話	メール	来所	関係形成	個別支援	連絡調整
中央	367	475	33	144	17	852	182
白糸台	330	425	52	104	61	805	521
西府	103	312	133	111	23	265	381
武蔵台	335	346	23	298	30	897	89
新町	531	738	132	287	38	1,289	378
住吉	212	542	66	420	25	1,050	209
是政	312	588	46	309	18	1,069	203
紅葉丘	226	564	177	308	300	1,099	683
押立	224	483	48	97	62	449	385
四谷	84	174	100	110	24	449	92
片町	180	485	21	123	8	686	133
全域	0	6	2	5	2	4	8
市外・不明	3	64	5	39	3	90	21
計	2,907	5,202	838	2,355	611	9,004	3,285
合計	11,302				12,900		

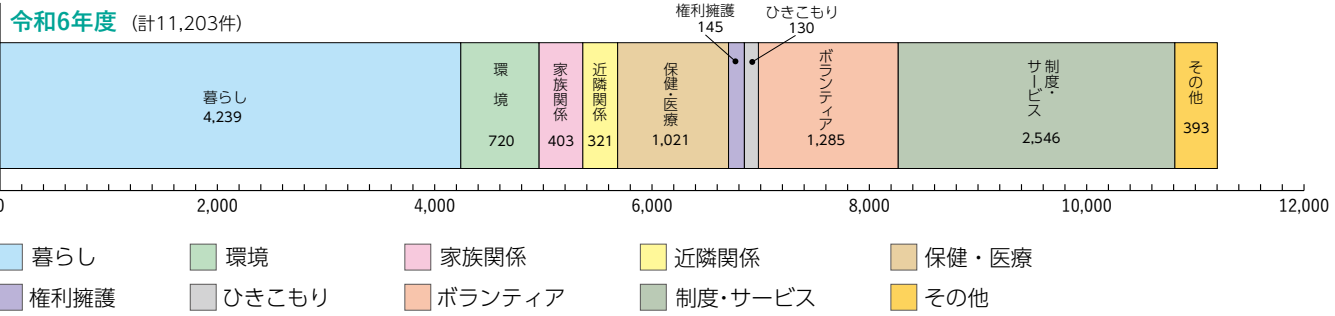
【個別支援】相談経路の推移
平成27年度～令和6年度



個別支援（個別ケースに関する支援）
地域福祉コーディネーターが本人へ直接かわること、地域福祉コーディネーターが本人のために関係機関や
わがまち等に相談、調整すること。

- ①相談経路・・・訪問、電話、メール、来所
- ②相談内容・・・関係形成、個別支援、連絡調整 ※該当する項目すべてに入力
 - ・関係形成（本人との関係づくりのための訪問、関係団体やグループとの関係づくりのための訪問、会議参加、イベント参加）
 - ・個別支援（支援のための訪問、相談、状況確認、関係者との相談）
 - ・連絡調整（本人や関係者との簡易な調整、書類渡し、会議調整）

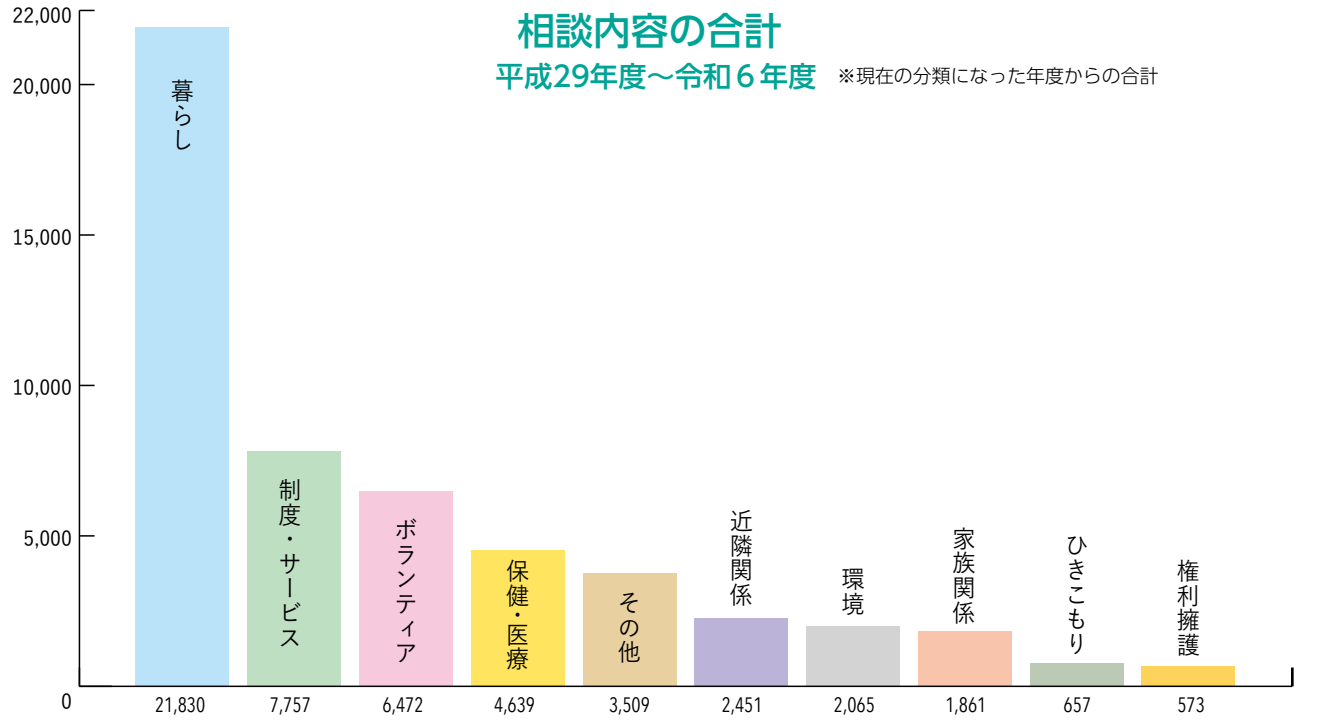
相談内容分類



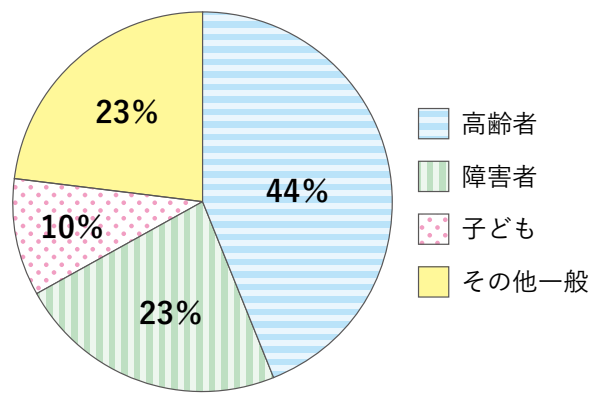
相談内容分類の推移 ※1回の相談で2つ以上の内容が含まれる場合、両方カウント

項目	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	合計
暮らし	1,160	1,508	1,633	1,845	3,622	4,288	3,535	4,239	21,830
環境	196	170	94	124	215	159	387	720	2,065
家族関係	277	76	165	166	202	225	347	403	1,861
近隣関係	360	304	237	254	288	382	305	321	2,451
保健・医療	690	456	446	452	534	345	695	1,021	4,639
権利擁護	22	39	54	41	104	47	121	145	573
ひきこもり	36	23	58	68	89	114	139	130	657
ボランティア	314	213	707	479	1,052	1,103	1,319	1,285	6,472
制度・サービス	440	285	340	407	459	1,018	2,262	2,546	7,757
その他	265	218	373	270	567	980	443	393	3,509
合計	3,760	3,292	4,107	4,106	7,132	8,661	9,553	11,203	51,814

分類	主な相談内容
暮らし	住居(立ち退きなど)、就労、金銭問題(管理不十分など)、食支援、漠然とした不安
環境	庭木、片付け、交通事情(危険箇所)、空き家、ペットの糞尿問題
家族関係	不登校、ヤングケアラー、DV、自虐、虐待、離婚、子との同居・別居
近隣関係	ゴミ屋敷、迷惑行為(騒音、徘徊、異臭、大声)、嫌がらせ、安否が心配、子育ての様子
保健・医療	体調、認知症の疑い、病気、医療機関に関すること
権利擁護	訴訟、相続、財産分与、消費者トラブル、成年後見、法律関係
ひきこもり	情報提供、関係形成、関わりを持ってほしい、気にかけてほしい
ボランティア	特技をいかしたい、ボランティアをしたい、ボランティアをしてほしい、食品寄付
制度・サービス	介護保険、住宅セーフネット住まい相談、居住保証事業、介護予防
その他	居場所が欲しい、サロンについて、訪問販売、犬の散歩ができない、個別支援会議に関すること

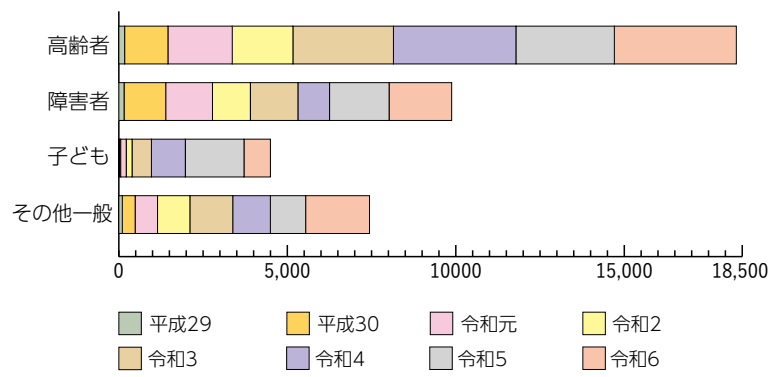


令和6年度 相談対象者分類



相談対象者数の推移

分類	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
高齢者	172	1,285	1,909	1,800	2,983	3,635	2,921	3,620
障害者	155	1,236	1,388	1,124	1,411	939	1,767	1,857
子ども	13	40	166	173	575	1,006	1,741	784
その他一般	103	381	664	960	1,272	1,117	1,047	1,895
総計	443	2,942	4,127	4,057	6,241	6,697	7,476	8,156



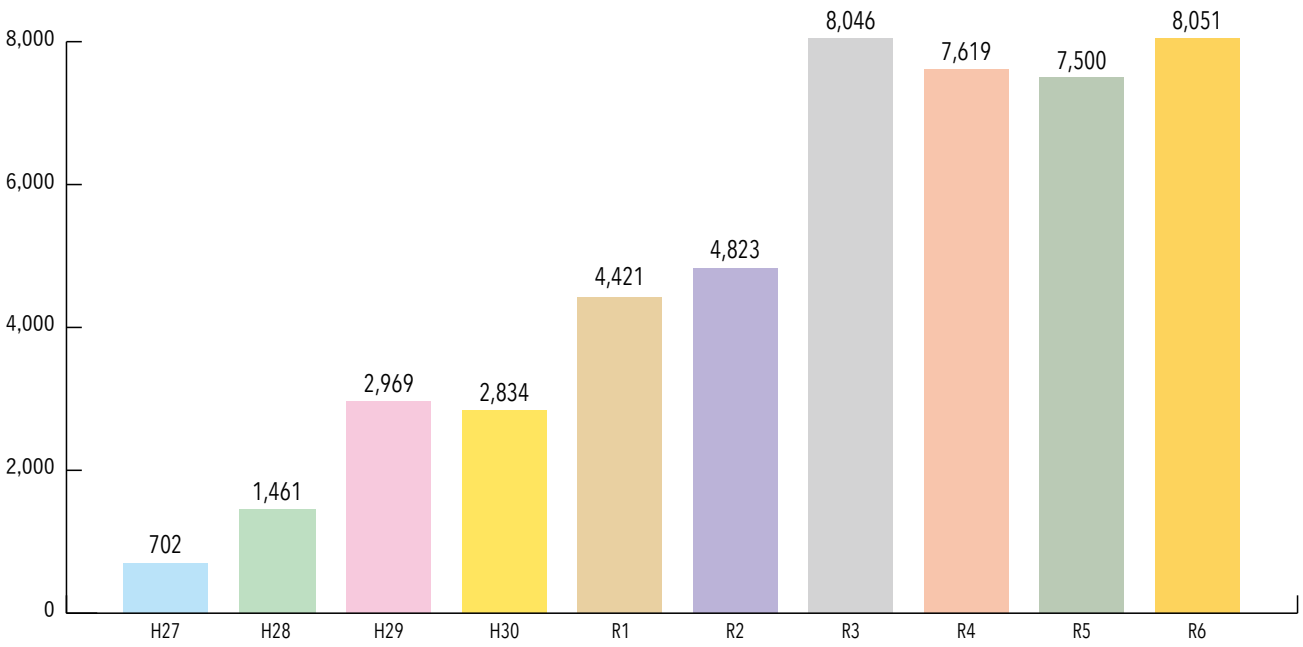
実相談対象者数の推移

圏域	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	計
紅葉丘	15	18	36	53	69	49	117	245	602
白糸台	36	26	39	41	88	81	124	123	558
押立	47	42	34	47	55	82	63	123	493
是政	23	17	14	26	77	16	105	169	447
新町	36	38	101	92	104	162	211	260	1,004
中央	64	32	91	68	91	253	173	168	940
片町	33	33	52	56	86	95	113	125	593
武蔵台	68	56	99	90	88	102	172	178	853
西府	18	28	93	45	59	86	87	110	526
住吉	51	74	99	100	141	161	188	190	1,004
四谷	14	20	24	20	69	77	103	109	436
その他、市外	38	7	5	11	3	5	26	35	130
計	443	391	687	649	930	1,169	1,482	1,835	7,586

地域福祉コーディネーター活動実績【地域支援】^(件)

圏域	相談経路				相談内容			
	訪問	電話	メール	来所	関係形成	立上支援	運営支援	連絡調整
中央	92	41	10	17	14	13	119	25
白糸台	190	79	472	35	25	7	664	601
西府	168	82	182	29	5	0	169	298
武蔵台	423	90	71	32	22	0	528	78
新町	567	253	133	219	12	4	954	196
住吉	420	103	37	98	13	0	571	100
是政	449	97	80	56	20	11	509	156
紅葉丘	576	243	409	192	183	13	1,249	784
押立	269	32	229	20	16	1	304	247
四谷	314	110	243	22	6	1	541	176
片町	156	91	218	37	11	2	234	256
全域	150	48	75	44	30	5	210	90
市外・不明	9	14	15	10	6	3	28	18
計	3,783	1,283	2,174	811	363	60	6,080	3,025
合 計	8,051				9,528			

【地域支援】相談経路の推移
平成27年度～令和6年度



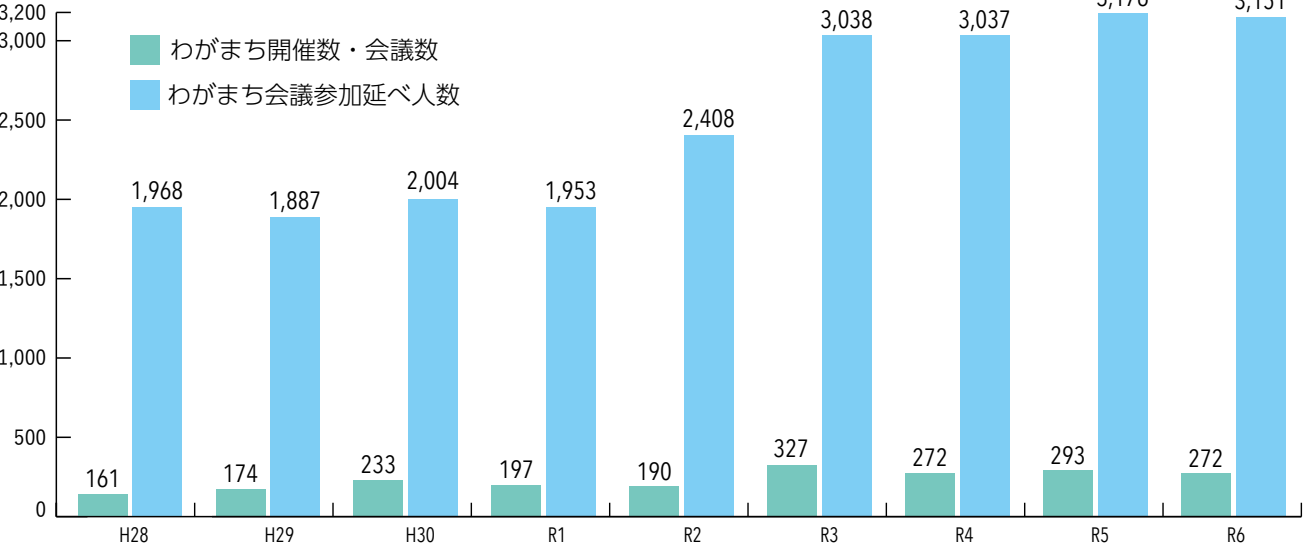
令和3年度にわがまち支えあい協議会が府中市全11ヶ所の文化センター圏域で発足したことや、感染拡大防止対策が緩和されたことから、活動が活発化している。また、わがまちタウンミーティングやわがまち説明会を開催、地域活動情報誌「Connecふちゅう」の発行をすることで、新たな活動者が増えている。

令和6年度 わがまち支えあい協議会開催状況

開催回数 272 回（定例会、臨時会、役員会、各種会議） 活動者数 延 3,151 人

実施圏域	令和 6 年度実績	
	開催回数	延べ参加者 人数
中央文化センター（中央ささえあいの会）	23 回	298 人
白糸台文化センター（ささえあいの会～白糸台・若松町・清水が丘・小柳町～）	24 回	261 人
西府文化センター（にしふエリアささえ愛の会）	27 回	228 人
武蔵台文化センター（武蔵台・北山・西原ささえあいの会）	24 回	288 人
新町文化センター（新町ささえあいの会）	21 回	296 人
住吉文化センター（住吉・分梅・南町ささえあい協議会）	31 回	407 人
是政文化センターア（わがまち支えあいの会～小柳・是政・清水が丘エリア～	28 回	372 人
紅葉丘文化センター（わがまちありすの会）	26 回	226 人
押立文化センター（押立・車返ささえあい協議会）	37 回	264 人
四谷文化センター（ささえあい四谷）	19 回	292 人
片町文化センター（かたまち支えあいの会）	12 回	219 人
合計	272 回	3,151 人

わがまち支えあい協議会開催状況の推移
平成28年度～令和 6 年度



緊急事態宣言の期間（令和2年4月7日～ 5月25日、令和3年1月8日～ 3月21日）は、感染症拡大防止のため中止の活動があった。定例会については上記の期間、書面開催で実施した。「会えない」ことで新たに生まれた課題に気づくことができ、改めてわがまち活動の重要性を実感する機会となった。毎月1回実施している定例会は、地域住民を中心に、自治会、民生委員、市議会議員、学校関係者、幼稚園、保育園、警察、企業、福祉施設職員、包括支援センター、サロン、子ども食堂関係者など多くの関係機関に参加していただき、地域の現状を共有し、地域課題について話し合っている。また、ちょこっとお手伝い（生活支援）やサロンなど各地域ごとに打ち合わせを行ったり、定例会に向けて役員で事前打ち合わせをするなど、地域課題を共有、解決するために多くの話し合いの場が持たれてきた。

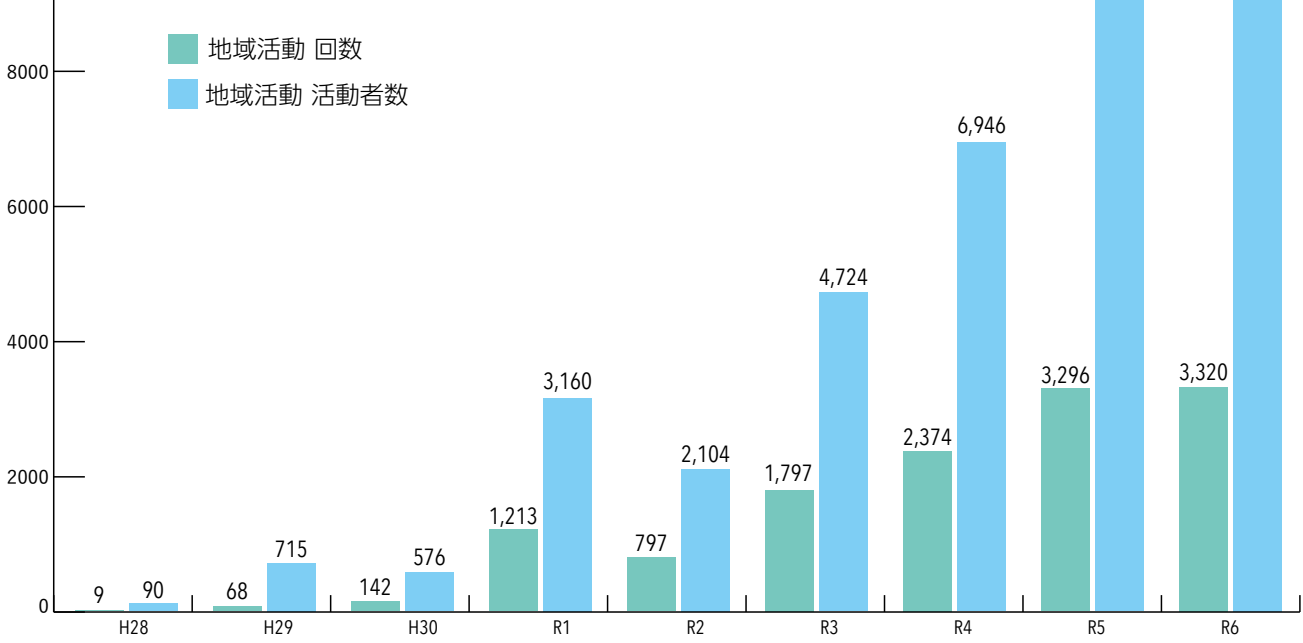
話し合いを重ねながら、地域に必要なこと、地域住民でできることを共に考え、実行した。主な活動としては、居場所・交流の場づくり、ちょっとした生活支援、子どもの見守り、食に関わる支援、PR等があり、11か所あるわがまちが、それぞれの地域の特性や活動者の意見を反映しながら活動を継続している。

令和6年度 わがまち支えあい協議会による地域活動

開催回数 3,320 回 活動者数 延 9,688 人

対象圏域	令和 6 年度実績	
	実施回数	延べ活動 者数
中央文化センター（中央ささえあいの会）	124 回	350 人
白糸台文化センター（ささえあいの会～白糸台・若松町・清水が丘・小柳町～）	311 回	636 人
西府文化センター（にしふエリアささえ愛の会）	517 回	1,361 人
武蔵台文化センター（武蔵台・北山・西原ささえあいの会）	87 回	319 人
新町文化センター（新町ささえあいの会）	189 回	1,150 人
住吉文化センター（住吉・分梅・南町ささえあい協議会）	172 回	1,011 人
是政文化センターア（わがまち支えあいの会～小柳・是政・清水が丘エリア～	879 回	1,581 人
紅葉丘文化センター（わがまちありすの会）	312 回	938 人
押立文化センター（押立・車返ささえあい協議会）	238 回	1,087 人
四谷文化センター（ささえあい四谷）	431 回	982 人
片町文化センター（かたまち支えあいの会）	60 回	273 人
合計	3,320 回	9,688 人

わがまち支えあい協議会による地域活動の推移
平成28年度～令和 6 年度



緊急事態宣言の期間（令和2年4月7日～ 5月25日、令和3年1月8日～ 3月21日）は感染拡大防止のため中止の活動があった。

わがまち支えあい協議会ボランティア説明会実績

令和 6 年度	わがまち東部圏域	わがまち中央圏域	わがまち西部
開催数	1	1	2
参加者数	10	19	30

わがまちタウンミーティングやボランティア入門講座等に加え、地域福祉コーディネーターとしてわがまち活動の協力者を増やすために企画実施している。

令和6年度地域福祉 外部会議・外部研修への出席状況

外部会議等への出席状況

【生活支援コーディネーター（1層）】

- ・府中市地域支援ネットワーク関係者連絡会
- ・府中市介護予防事業検討会議・介護予防事業作業部会
- ・包括支援センター長会議
- ・自立支援ケア会議
- ・短期集中予防サービス事業に係る全体意見交換会・短期集中予防サービス事業評価会議
- ・府中市在宅医療・介護連携会議（認知症部会）（日常の療養支援部会）
- ・地域リハビリテーション活動支援検討会議
- ・高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進等協議会



【地域福祉コーディネーター・生活支援コーディネーター（2層）】

- ・府中市民生委員児童委員協議会（地区協議会）
- ・高齢者地域支援連絡会（地域包括支援センター）
- ・運営推進会議（高齢者施設）
- ・府中市要保護児童対策地域協議会
- ・府中市子ども・子育て審議会
- ・府中市地域子ども・子育て応援連絡会
- ・府中市ヤングケアラーネットワーク会議
- ・府中市認知症地域支援推進員連絡会
- ・府中市市民協働推進会議（提案型協働事業報告部会）（価値共創促進事業審査会）
- ・府中市精神障害にも対応した地域包括ケアシステム連絡会議
- ・府中市障害者等地域自立支援協議会
- ・府中市自殺対策関係者連絡会
- ・介護認定審査会
- ・東京都ひきこもりサポートネット情報交換会
- ・精神保健福祉関係機関連絡会
- ・北多摩南部ブロック地域福祉コーディネーター担当者会議

外部研修等への出席状況

- ・生活支援コーディネーター初任者研修
- ・生活支援コーディネーター現任者研修Ⅰ、現任者研修Ⅱ
- ・生活支援コーディネーター研究協議会
- ・市区町村介護予防事業担当者向け研修、実践Ⅰ、実践Ⅱ
- ・区市町村社協地域福祉コーディネーター養成研修〈基礎研修編〉
- ・区市町村社協地域福祉コーディネーター養成研修〈実践研修編〉
- ・区市町村社協地域福祉コーディネーター養成研修〈実地研修編〉
- ・地域福祉コーディネーターリーダー研修
- ・地域づくりをすすめるコーディネーター連絡会（東社協）
- ・災害ボランティアコーディネーター養成講座 運営者コース初任者向け
- ・ひきこもり支援者向け研修（東京都福祉保健財団）
- ・府中市ヤングケアラー講座基礎研修、対面講座
- ・東京都キャラバン・メイト養成研修（東京都）
- ・区市町村苦情対応機関の専門研修「苦情対応機関職員メンタルヘルス研修」
- ・精神保健福祉研修
- ・東京都若年性認知症相談支援研修
- ・府中市多職種研修会



ボランティア・協力会員入門研修実績の推移

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
開催数	12	12	12	22	22	12	22	22	18	15
参加人数	60	91	85	97	101	38	78	103	103	92

※定期開催、臨時開催を含む
H27までは夢バンクボランティア教室という名称で実施

助成金交付件数の推移

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
地域交流サロン活動	5	11	15	12	15	3	20	25	25	28
その他の地域福祉活動	0	0	0	6	8	4	18	18	19	15
福祉関係団体	5	5	5	5	6	6	6	6	6	6
わがまち支えあい協議会	0	1	1	2	3	5	11	11	11	11
自治会関係団体	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0

サロンマップ掲載団体の推移

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
掲載団体数	68	67	68	81	79	83	75	78	77	85

出張ボランティア教室開催状況の推移

(回)

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
車いす体験	19	17	18	39	30	0	0	3	3	3
高齢者疑似体験	7	9	4	11	7	0	0	0	2	2
ガイドヘルプ体験	7	6	7	16	11	0	0	0	0	1
点字体験	6	7	9	9	8	0	1	9	7	0
手話体験	4	9	8	5	5	3	6	5	10	0
福祉講話	3	5	4	3	2	0	0	3	2	2
HUG(避難所運営ゲーム)	0	3	5	3	2	0	0	2	2	5
視覚障害者講話	3	4	4	2	3	2	2	0	0	2
聴覚障害者講話	0	0	0	0	0	0	1	0	0	10
肢体不自由者講話	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2
合計	49	60	59	88	68	5	10	24	27	27

これからの10年に向けて

今から10年前、第3次地域福祉活動計画の策定委員会において、地域福祉コーディネーターの配置とわがまちの立ち上げについて検討がなされ、重点事業として位置づけられました。この計画に基づいて府中市社協では新たな取り組みへのチャレンジが始まり、担当職員をはじめ当時の伊藤会長も一緒になって足繁く粘り強く地域へ出かけられ、多様な声を聴きながら計画で掲げたビジョンの具現化に向かっていかれました。

そして今日、すべての地域においてわがまちが活発に活動を展開し、地域福祉コーディネーターの体制も充実してきました。10年前に思い描いたイメージをはるかに超えた取組みが生まれています。社協として丁寧に地域へ関わってきた成果であり、何より地域内の多様な人々の熱意がつながった結晶であり、府中の地域力の現れだと思えます。これまで携わられたすべての方々に敬意を表します。

これからの10年を考えた時、社会は一体どうなるのかと危惧せざるを得ないような出来事が国内外で起きています。人工知能（AI）の技術もより進化し、生活に入り込んでくる中で、私たちの人間力が今まで以上に試される時代になっていくかもしれません。差別や排除が公然と語られつつあり、先行きが不透明な時代だからこそ、大切にしたいのは自分が暮らす地域での人とのつながりであり、それを基盤とした世界の平和です。周りの人々の生きづらさや生きる力に目を向け、自分達にできることを話し合い、協力しながら生み出していくというわがまちの活動は、ますます重要な意味を

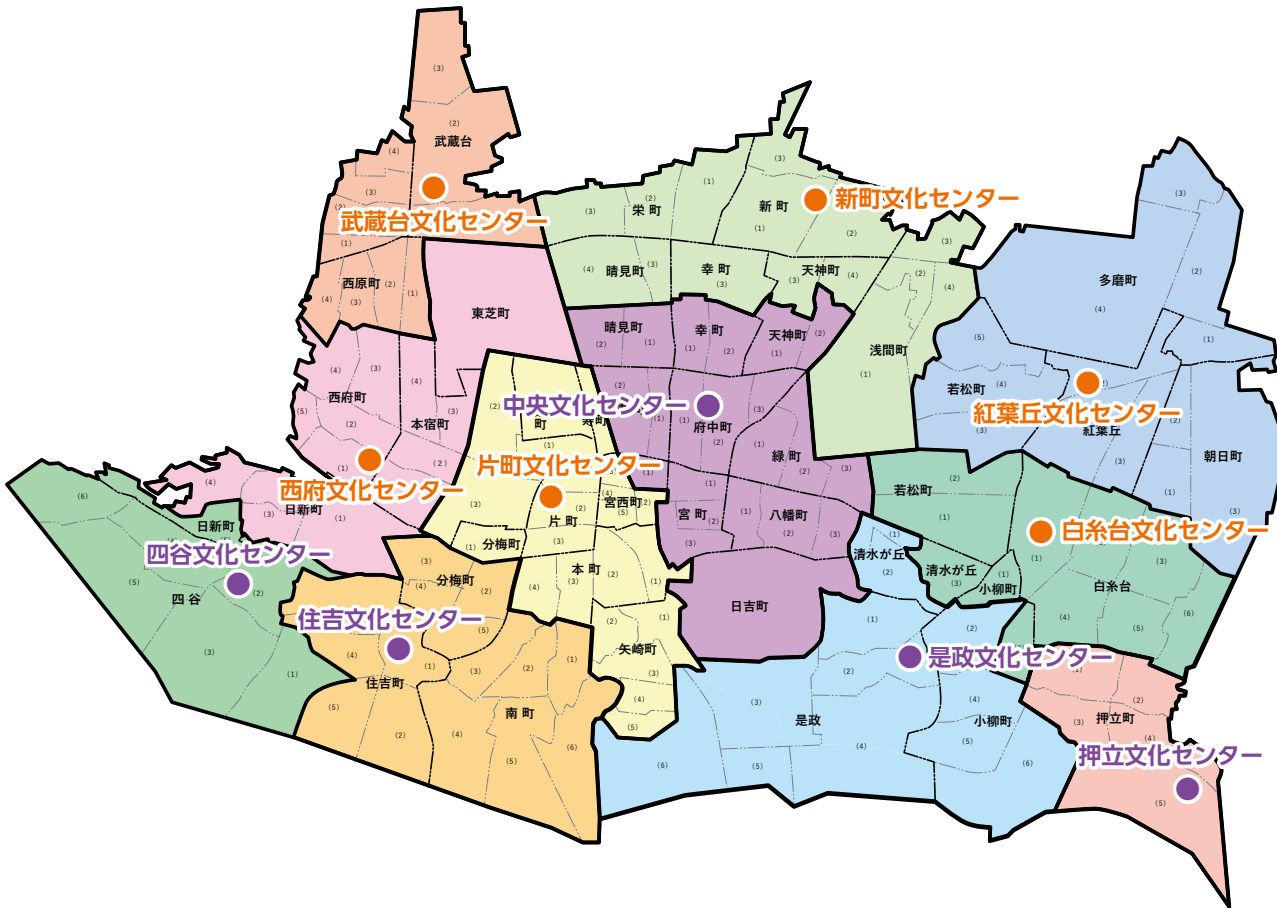
持ってくることでしょう。

しかし、活動開始後には必ず立ち上げ当初のメンバーからの世代交代の時期がやってきます。この局面を超えるためには、絶えず新たな仲間が合流しやすい活動を続けていくことが不可欠です。これからも多様な人々が出入りできるプラットフォームとして、わがまちがさらに発展していくことを願っています。

そして地域福祉コーディネーターの方々には、これまで同様に地域の活動を支えるとともに、生きづらさを抱えた一人ひとりに寄り添う個別支援力のさらなる向上を目指してほしいと思います。これまではわがまちを立ち上げ、その活動をどう支えていくかに力点が置かれた段階でした。これからは、こうした地域支援に加えて、個別支援として制度の狭間の問題等を抱えた人々に対する関わりを強化する必要があり、ソーシャルワーカーとしての力量が一層求められる段階に向かうこととなります。また、多くの地域福祉コーディネーターを擁する体制となり、チームマネジメント力を高めていくことも求められ、さらには地域福祉コーディネーターと社協内の各部署間との連携強化が何より重要であり、そのうえで社協以外の多機関多職種の中で存在感を示せるかが問われます。

これからの10年、だれもが社会とのつながりの中で幸せを感じられるように力を合わせていきましょう。

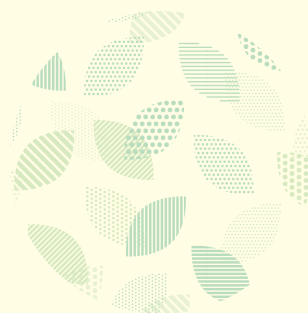
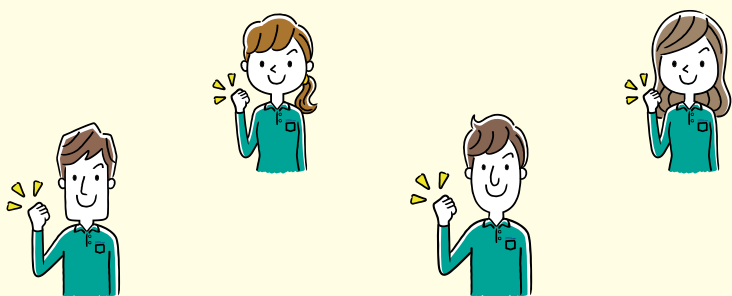
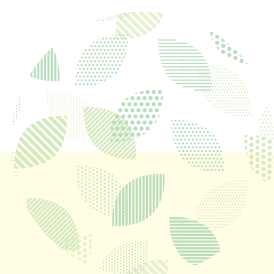
日本社会事業大学
菱沼幹男



該当エリアの詳細

圏 域	該当エリア
紅葉丘	朝日町、多磨町、紅葉丘、若松町3～5丁目
白糸台	小柳町1・3丁目、清水が丘3丁目、白糸台(車返団地を除く)、若松町1・2丁目
押 立	押立町・白糸台(車返団地のみ)
是 政	小柳町2・4～6丁目、是政、清水が丘1・2丁目
新 町	幸町3丁目、栄町、新町、浅間町、天神町3・4丁目、晴見町3・4丁目
中 央	八幡町、日吉町、宮町、寿町1・2丁目、府中町、天神町1・2丁目、宮西町1丁目、幸町1・2丁目、緑町、晴見町1・2丁目
片 町	片町、寿町3丁目、日鋼町、分梅町1丁目、本町、宮西町2～5丁目、矢崎町、美好町（3丁目の一部を除く）
武蔵台	北山町、西原町、武蔵台
西 府	東芝町、西府町、日新町1～4丁目、本宿町、美好町（3丁目の一部）
住 吉	住吉町、分梅町2～5丁目、南町
四 谷	日新町5丁目、四谷





地域福祉コーディネーター
生活支援コーディネーター

令和6年度活動報告書

府中市社会福祉協議会

令和7年10月発行

発行者：社会福祉法人 府中市社会福祉協議会

〒183-0055 府中市府中町1-30 ふれあい会館内

電話：042-364-5382 FAX：042-362-9090

ホームページ：https://www.fsyakyo.or.jp/

メール：fuwari@fsyakyo.or.jp



2次元コードから
ホームページへ
移動できます

